

第四十六回 貴族院議事速記録第十一號

大正十二年二月十三日(火曜日)

午前十時十七分開議

議事日程 第十一號 大正十二年二月十三日

午前十時開議

- 第一 明治四十年法律第二十一號中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第二 醫師法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第三 市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第四 所得稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第五 營業稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第六 石油消費稅法廢止法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第七 賣藥稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第八 印紙稅法中改正法律案(政府提出、衆議院送付) 第一讀會
- 第九 所得稅法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ報告ヲ致サセマス

(小林書記官朗讀)

去ル六日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

大正十一年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

同日豫算委員會ニ於テ決定シタル分科及分科擔當委員ノ氏名左ノ如シ

第一分科(歳入、大藏省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳、南洋廳ヲ除ク)

- 子爵青木 信光君 子爵八條 隆正君 子爵渡邊 千冬君
- 男爵阪谷 芳郎君 男爵東郷 安君 仁尾 惟茂君
- 若槻禮次郎君 橋本 圭三郎君 菅原 通敬君
- 和田 豊治君 橋本 辰二郎君

兼務

若林 賚藏君 二階堂三郎左衛門君

第二分科(外務省、司法省)

- 公爵二條 厚基君 侯爵細川 護立君 伯爵寺島 誠一郎君
- 男爵小澤 武雄君 子爵板倉 勝憲君 男爵中川 良長君
- 男爵矢吹 省三君 藤田 四郎君 江木 翼君

兼務

- 伯爵副島 道正君 子爵伊東 祐弘君 犬塚 勝太郎君
- 男爵佐竹 義準君 男爵坂本 俊篤君 上山 滿之進君

第三分科(內務省、文部省)

- 伯爵松木 宗隆君 伯爵林 博太郎君 伯爵松平 賴壽君
- 子爵野村 益三君 北里 柴三郎君 木場 貞長君
- 江木 千之君 男爵目賀田種太郎君 岡田 良平君
- 男爵南岩倉 具威君 男爵千秋 季隆君 阪本 鈺之助君

兼務

- 公爵二條 厚基君 侯爵細川 護立君 男爵木越 安綱君
- 子爵大河内 正敏君 湯淺 倉平君 星島 謹一郎君

第四分科(陸軍省、海軍省)

- 伯爵副島 道正君 男爵木越 安綱君 子爵樋口 誠康君
- 男爵村上 敬次郎君 大島 健一君 男爵坂本 俊篤君
- 石渡 敏一君 二階堂三郎左衛門君

兼務

- 男爵目賀田種太郎君 男爵南岩倉 具威君 江木 翼君
- 鎌田 勝太郎君

第五分科(農商務省、逓信省)

- 子爵酒井 忠亮君 子爵榎本 武憲君 犬塚 勝太郎君
- 小松 謙次郎君 上山 滿之進君 若林 賚藏君
- 男爵小畑 大太郎君 高橋 琢也君 湯淺 倉平君
- 兼務 矢口長右衛門君 藤本 閑作君 横山 章君

本場 貞長君 阪本 鈺之助君 今井 五介君

橋本 辰二郎君

第六分科(鐵道省、朝鮮總督府、臺灣總督府、關東廳、樺太廳、南洋廳)

子爵牧野 忠篤君 子爵伊東 祐弘君 子爵大河内 正敏君

和田 彦次郎君 男爵佐竹 義準君 男爵藤堂 高成君

木内 重四郎君 山之内 一次君 星島 謹一郎君

今井 五介君 鎌田 勝太郎君

兼務 子爵樋口 誠康君 子爵野村 益三君 子爵板倉 勝憲君

男爵千秋 季隆君 男爵矢吹 省三君 藤田 四郎君

菅原 通敬君 矢口長右衛門君

去ル七日請願委員副委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表第三回報告書

去ル八日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

去ル十日豫算委員長ヨリ分科擔當委員ノ兼務ヲ左ノ如ク決定セル旨ノ報告書ヲ提出セリ

第一分科擔當委員 子爵渡邊 千冬君

第三分科兼務

同日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

醫師法中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案

所得稅法中改正法律案

營業稅法中改正法律案

石油消費稅法廢止法律案

賣藥稅法中改正法律案

印紙稅法中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

所得稅法中改正法律案

昨十二日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

廢兵院法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵今城 定政君

副委員長 櫻井 伊兵衛君

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

大學特別會計法中改正法律案

大正八年法律第十二號中改正法律案

○議長(公爵德川家達君) 去ル七日、議員侯爵伊達宗陳君薨去セララルニ依リ十日弔辭ヲ贈リマシタ

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、山中男爵病氣ニ付

キ廢兵院法中改正法律案特別委員辭任ノ旨申出ラレマシタ、之ヲ許可イタス

コトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス、其補闕トシテ佐竹男爵ヲ指名イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ請暇ノ件ニ付キ御諮リヲ致シマス、柳澤伯爵

病氣ニ付キ十六日間、山中男爵病氣ニ付キ二十一日間、神野勝之助君病氣ニ付

キ十六日間、磯部四郎君病氣ニ付キ二十一日間、津島源右衛門君病氣ニ付キ二

十日間ノ請暇ゴザイマス、何レモ許可ヲ致スコトニ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 是ヨリ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、明治

四十年法律第二十一號中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、本

日ハ通牒文ノ朗讀ハ省略イタシタク考ヘマス、御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔左ノ通牒文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之

ニ做フ〕

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十二年二月八日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

明治四十年法律第二十一號中改正法律案

明治四十年法律第二十一號中左ノ通改正ス

第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六 漁業稅

附則

本法ハ大正十二年分ヨリ之ヲ適用ス

參照

○權太ニ於ケル租稅ニ關スル法律(明治四十年法律第二十一號)

第一條 權太ニ於テハ左ニ掲クル租稅ヲ賦課徵收ス

一 市街宅地稅

二 所得稅

三 營業稅

四 酒造稅

五 醬油稅

前項租稅ノ種類及課率ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 租稅ノ徵收及滯納處分ニ關シテハ國稅徵收法ヲ準用ス

第三條 本法ニ規定スルモノク外租稅ノ賦課徵收其ノ他必要ナル事項ニ關スル規程ハ權太廳長官之ヲ定ム

附則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員永井金次郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(永井金次郎君) 唯今議題ニナリマシタ明治四十年法律第二十一號中改正案ノ說明ヲ申上ゲマス、本案ハ極メテ簡單ナル問題デゴザイマシテ、即チ權太ニ於キマスル租稅ノ項目中ニ漁業稅ノ一項ヲ追加セムトスルノデアリマス、此問題ハ全然新規ノデハゴザイマセズ、從來ヨリ漁業料ト云フモノデ徵收ラシテ居ッタノデアリマス、ソレヲ租稅ト致シマスト當業者モ納稅資格ニ編入サレマスガ故ニ、各種ノ點ニ利益、便益ガゴザイマスノデアリマス、又政府ト致シマシテモ收入ノ確實ヲ圖ルコトガ出來マスルノ

デ、要シマスルニ當業者モ便利デアリ、政府モ便利デアリマスルノデ、本案ノ如ク改正イタシタイト存ズル次第デアリマス、尙ホ内容ニ付キマシテハ漁業料ト大同小異デゴザイマス、唯此機會ニ於キマシテ負擔ノ輕減ヲ若干圖リタイト考ヘルノデゴザイマス、大體右様ノ次第デゴザイマスルノデ、何卒御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第二、醫師法中改正法律案、政府提出、第一讀會

醫師法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十二年二月十日

内閣總理大臣 男爵加藤友三郎

内務大臣 水野鍊太郎

醫師法中改正法律案

醫師法中左ノ通改正ス

第九條ノ五 道府縣醫師會ハ日本醫師會ヲ設立スルコトヲ得

日本醫師會ハ内地ヲ區域トス

道府縣醫師會ハ日本醫師會ノ會員トス

第八條第三項及前二條ノ規定ハ日本醫師會ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔國務大臣水野鍊太郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(水野鍊太郎君) 本案提出ノ理由ヲ簡單ニ説明イタシマス、現行醫師法ニ於キマシテハ地方醫師會即チ道府縣醫師會ハアリマスルガ、之ヲ統一スル所ノ醫師會ハナイノデアリマス、地方醫師會ノ事業ヲ統一シマスルト同時ニ、我國全體トシテノ醫事ノ改良、衛生ノ進歩ヲ圖ルベキ機關ト致シマシテ、全國的醫師會ヲ設立セシムルト云フコトハ、醫師會ノ系統ヲ完成イタシマシテ其職能ヲ發揮セシムル上ニ於テ、頗ル必要デアルト云フコトヲ認メ

ルノデアリマス、是ガ本案ヲ提出スル所以デアリマス、而シテ本案ノ要旨ハ、道府縣醫師會即チ地方醫師會ノ全部ヲ會員トスル日本醫師會ヲ設立スル

ト云フコトニナリマシテ、法人ノ資格ヲ認メマシテ、醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ラムトスルニアルノデアリマス、大體ノ趣旨ハ斯ノ通りデアリマス、ドウゾ御審査ノ上御協賛アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 日程第三、市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正十二年二月十日

衆議院議長 與 繁三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案

市町村義務教育費國庫負擔法

第一條 市町村立尋常小學校教員ノ俸給ニ要スル經費ノ一部ハ國庫之ヲ負擔ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ國庫ノ負擔トシテ支出スヘキ金額ハ毎年度四千萬圓ヲ下ラサルモノトス

第三條 國庫支出金ハ第五條ノ交付金額ヲ除キ其ノ三分ノ二ハ市町村ニ、三分ノ一ハ第四條ノ交付金額ヲ除キ町村ニ、各其ノ半額ヲ前年六月一日ニ於ケル市町村立尋常小學校ノ教員數ニ、他ノ半額ヲ前年六月一日ニ於ケル市町村ノ就學兒童數ニ比例シテ交付ス

第四條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ資力其ノ他ノ事情ニ依リ必要アリト認メタル市ニ對シ前條ノ規定ニ依リ當該市ノ受クル金額ノ二分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ特ニ交付金額ヲ増加スルコトヲ得

第五條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ資力其ノ他ノ事情ニ依リ必要アリト認メタル町村ニ對シ國庫支出金ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ特ニ交付金額ヲ増加スルコトヲ得

第六條 本法ニ定ムル市町村立尋常小學校教員中ニ算入スヘキ代用教員ノ範圍ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 本法ノ適用ニ付テハ市町村組合ハ之ヲ市、町村組合及町村制ヲ施行セサル地域ニ於ケル町村ニ準スヘキ公共團體、其ノ組合又ハ小學校設置區域ハ之ヲ町村ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ市町村立尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ハ之ヲ市町村立尋常小學校ト看做ス

附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔國務大臣鎌田榮吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) 諸君、市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案ヲ提出イタシマス、御承知ノ如ク、從來小學校教員ノ俸給ニ充テマスル爲ニ、毎年一千万圓ヲ國庫カラ支出イタシテ居ッタノデアリマス、爾來此教育費ハ益、増加イタシマシテ、又市町村ノ經濟ノ狀態等ニ鑑ミマシテ此儘ニ差措クトガ出來マセヌ故ニ、更ニ三千万圓ノ増加ヲ致シマシテ、都合四千万圓ヲ支出スルト云フコトニ致シマシタ、從ヒマシテ此ノ國庫負擔金ノ分配法ト云フモノニ付キマシテハ數年間ノ實績ニ照シ、又町村ノ狀態ニ鑑ミマシタ譯デ、相當之ヲ改正スル必要ヲ認メマシタカラ、其分配法ニ付テモ改正ヲ施スコトニ致シマシテ、茲ニ此改正案ヲ提出イタシタ譯デアリマスカラ、ドウゾ慎重御審議アラセラレマシテ、御協賛アラムコトヲ希望イタシマス次第デアリマス

〔岡田良平君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 岡田君ハ何デスカ

○岡田良平君 通告ガゴザイマセヌケレバ、チヨット質問イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 通告ガゴザイマスカラ、通告ガ濟ミマシテカラ願ヒマス、阪本鈺之助君

〔阪本鈺之助君演壇ニ登ル〕

○阪本鈺之助君 唯今議題ニナリマシタ市町村義務教育費國庫負擔法改正案ニ付キマシテ、唯今文部大臣ヨリ簡單ナル御説明ガゴザリマシタガ、之ニ付テ暫ク諸君ノ御清聽ヲ煩シマシテ、質問ヲ致シタイト存ジマス、前内閣ハ高等教育機關ノ擴張ト申スコトノミ没頭セラレマシテ、國家ノ存立上最モ重要ナル國民教育ノ施設改善ト云フコトニハ一向顧慮セラレナカタノデアリマス、然ルニ現内閣ハ是ト撰テ異ニシマシテ、劈頭市町村義務教育費國庫負擔法ノ改正ヲ發案セラレテ、而カモ金額三千万圓ヲ増サムトセラルルニ至リマシタ

ノハ、我々ノ喜ブ所デアリマスル、此即チ義務教育費國庫負擔ト申スコトハ  
前々内閣、即チ寺内内閣ノ時ニ初メテ發案セラレマシタノガ發端デアルノデ  
アリマス、當時貴衆兩院トモニ國庫ニ於テ義務教育費ヲ分擔スルト云フコト  
ノキ義ハ皆異議ハナカッタノデアリマスル、所ガ僅カ今日カラ申シマスレバ、  
一千萬圓ノ金デアリマスルガ、衆議院ハ之ヲ以テ市町村費ノ節約ニ資シタイ  
ト云フ希望ヲ持ッテ居ッタノデアリマス、我ガ貴族院ハ之ヲ以テ全ク義務教育  
改善ノ爲メ、言ヒ換ヘレバ小學教員ノ俸給ヲ豊富ニスルト云フコトニ使ヒタ  
イト云フ議論ヲ持チマシテ、此間少カラズ議論ニ間隔ヲ生ジマシタ、時ノ文  
部大臣デアッタ所ノ岡田君ハ頗ル苦心ヲセラレタコトデアリマシテ、之ヲ今  
日ヨリ追懷イタシマスレバ、誠ニ御氣ノ毒ニ堪ヘヌヤウナコトニ存ジマスル  
ノデアリマス、之ニ比ベテ見マスレバ時代ノ推移トハ申シナガラ、三千萬圓  
ト云フ巨額ノ増加ヲ提案セラレマシテ、衆議院ハ易々ト之ヲ通過イタシ、貴族  
院モ亦蓋シ大體ニ於テ御異議ハナカリサウニモ思ハレルノデアリマス、現  
文部大臣鎌田君ハ實ニ仕合セナ御方デアアルト存ジマスルノデアリマス、ソレ  
ニ付キマシテ、此本案ノ條文ニ付キマシテ、一應御尋ヲ致シテ見タイノデアリ  
マスルガ、此度ノ三千萬圓及ビ先キノ一千萬圓ヲ合セマシテ即チ四千萬圓、此  
四千萬圓ノ金ハ讀ンデ字ノ如ク、義務教育ノ費用ニ充テラレルモノタルコト  
ハ疑ヒナイト存ジマスルガ、全クサウデアアルカ、之ヲ詳シク申シマスレバ、  
義務教育ノ改善即チ小學教員ノ獎勵慰安ト云フコトニ向ッテ全部御使用ナサ  
ル御積リデアリマスルカ、又ハ市町村費ノ節約緩和ト云フヤウナコトニ使用  
セラレルト云フヤウナ御考ガ合ンデ居ルノデアリマスルカ、又次ニ此度第四  
條ト云フノガ、加ハリマシテ從前ナカリシ所ノ市ニモ幾分ノ補助ヲ與ヘルト  
云フ、補助ト申スト語弊ガアルカモ知レマセヌガ、市ノ教育費モ分擔シヤウ  
ト云フコトニナリマシタノデアリマスルガ、是ハ如何ナル理由ニ基クノデア  
リマスルカ、先ヅ此三點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、次ニ此四千萬圓ハ此  
法律ノ改正セラレル限リハ四千萬圓ヲ下ラナイ金額ヲ支出サレルト云フコト  
ハ明カデアリマスルガ、尙ホ追々進ンデハ六千萬圓トナリ八千萬圓トナリ、  
遂ニハ一億圓以上ニモ上ボセラレマシテ、小學教育ノ俸給ハ全部國庫ガ負擔  
スルト云フ御方針ニ出テ居ルノデアリマスルカ、定メテ此法案ヲ御出シニ  
ナリマスルニ付テハ、其邊モ御考慮ニナッテ居リマスルト存ジマスルガ故ニ、  
現内閣ハ是等ノ方針ニ向ッテハ如何ナル御考ヲ有セラレルカト云フコトヲ此

際伺ッテ置キタイノデアリマス、尙ホ此機會ニ於キマシテ、唯今總理大臣ハ  
御出席ハゴザイマセヌガ、總理大臣及ビ文部大臣ニ向ッテ御尋ヲ致シタイ重  
大ナル問題ガアルノデアリマス、抑、我國建國以來保有シ來リマシタ堅實ナ  
ル國民精神、之ニ加フルニ徳川幕府三百年間涵養シタル所ノ儒教主義、忠信  
孝悌ノ大道ト申スモノハ漸次頹廢ヲ致シマシテ、特ニ先年ノ歐洲大戰ノ後  
ハ、其結果トシテ齎シマシタル所ノ奢侈享樂ノ風潮ト共ニ、全クトマデハ申  
シマセヌガ大部分掃蕩シ去ラレマシテ、今日ハ御出席ガナイカモ知レマセヌ  
ガ、徳富猪一郎君ノ口吻ヲ借リテ申シマスレバ、思想ノ破産ヲ來タシタノデ  
アリマス、尙ホ道德ノ不渡手形ガ續出スルト云フ有様デアアルノデアリマス、  
現内閣諸公ガ若シ銀行重役デアラシヤッタナラバ、此不渡手形ヲ如何ニ御始  
末ヲナサルデアリマセウカ、又此破産銀行ノ整理ハ如何ニナサルノデアリマ  
セウ、殊ニ專務取締役タル文部大臣ハ此點ニ付テ如何ナル御考ガアラシヤ  
ルノデアリマセウカ、誠ニ大切ナコトト存ジマスルガ故ニ伺ッテ置キタイ  
ノデアリマス、斯ク申シマシタナラバ、當局ハ必ズ現ニ義務教育費ノ國庫負  
擔ヲ増加シテ居ルデハナイカ、増加セムトシテ居ルデハナイカ、又高等師範  
學校モ昇格ヲ致シテ文理科大學ニスル、是等皆國民教育ノ進歩教育ノ進歩  
改善ヲ圖ル精神ニ過ギヌノデアアル、斯ウ先ヅ御答ヘニナルカモ知レマセヌ  
ガ、私考ヘマスルノニ思想ノ破産、道德ノ不渡手形ハ金ダケ救フコトハ出來  
ナイ、殊ニ高等師範學校ノ文理科大學ト改名スルガ如キ、寧ロ國民教育ノ退  
步デアルト迄、私共考ヘルノデアアル、決シテ是等ノ施設ヲ以テ道德ノ頹廢、  
思想ノ惡化ヲ救フニハ足ラヌモノデアアルト考ヘルノデアリマス、尙ホ斯ノ如  
キ問題ガ起リマスルト直グ義務教育年限ノ延長ト云フ聲ガ出テ來ルノデアリ  
マス、サウシテ義務教育ノ年限ヲ延長シナケレバ教育ハ徹底シナイト云フコ  
トガ、能ク人ノ口ニ上ボルノデアリマスルガ、是等ノ年限ダケ延長シタッテ何  
ニモナラヌト私ハ思フ、義務教育ヲ二箇年延長イタシタトシマスレバ、尙ホ今  
日ノ高等小學ガ無クナッテ、是ガ普通ノ義務教育年限ニナルノデアリマス、而シ  
テ今日ノ教育ノ狀況ヲ見マスルノニ、高等小學ノ卒業生ハ現ニ澤山居ルノデ  
アリマス、又中學ノ二學年ノ生徒……修業生、是等ガ其儘社會ヘ出テドナ  
用ヲ爲スデアリマセウカ、甚ダ申シタクナイコトデアリマスルガ、尋常小學  
ハ勿論ノコト高等小學二年ヲ經マシテモ、ソレガ社會ヘ出マシテドレダケ實

用ニ適スルカト云フコト、又中學ノ二學年……二學年ドコロデハナイ、中學ノ卒業生ハ世ノ中ニ出デドレ程ノ働キヲ爲シ得ルカト云フコトハ、覺束ナク感ズルノデアリマス、即チ此有様ヲ其儘ニ唯小學校ノ年限ガ延長シテ多少ノ學科ガ増加イタシ、授業時間ガ延ビタトシテモ、大シタ效果ガナイデハアルマイカ知ラヌト云フコトヲ私ハ寧ロ信ゼムトスル者デアアル、昨年十月三十一日ニ文部省ガ學制頒布五十年記念祝典ヲ舉ゲラレマシテ、其際ニハ畏クモ陛下ヨリ勅語ヲ賜ハリマシタノデゴザイマス、其御言葉末段ニ斯様ナコトガアリマス

朕ガ紹述ノ意ヲ體シテ遺訓ヲ遵奉シ、常ニ中外ノ時勢ヲ察シテ心ヲ啓發成就ニ用ヒ益力ヲ教學ノ振興ニ盡シテ以テ文運ノ昌明ヲ圖ラムコトヲ望ムト仰セラレテ居ルノデアリマス、陛下ニ於カセラレマシテハ確ニ中外ノ時勢、即チ時勢ニ付テハ聖慮ヲ煩ハシ給ヒ、又知能ヲ啓發シ德器ヲ成就セヨト云フコトハ、教育勅語ノ御趣意デアリマスルガ、是ガ現代ノ今日ニ於テ果シテ徹底シテ居ルヤ否ヤト云フコトヲ御軫念アラセラレルコトノ深ク且大ナルモノガアルト云フコトヲ拜察イタシマシテ、我々ハ恐懼措ク能ハザル所デアリマス、又總理大臣ノ祝辭中ニ「此祝典ハ過去半世紀ノ回顧ニ止マラズ更ニ將來ニ向テ啓運ノ發展ヲ期スルノ一階段タラムコトヲ翹望シテ已マザルナリ」、斯ウ言フテ居ラレマス、又文部大臣ノ祝辭中ニハ「本日御下賜ノ勅語ニモ宣セラレタ如ク文運ノ昌明ヲ圖リ今後一層教育ノ制度實質ト相並ビテ其進歩ヲ遂ゲネバナリマセヌ」、例ノ國語體テ仰シヤッテ居リマス、終リニ於テ更ニ其末文ノ所ニ「茲ニ五十年ヲ祝スルト共ニ本日ヲ以テ次ノ五十年ニ於ケル發達ノ出發點タラシメ此祝典ヲ意義アラシメタイト存ジマス」ト結ンデ居ラレルノデアアル、是ニ依テ見マスルト、總理大臣ニ於テモ五十年祝典ガ今後奎運發展ノ一階段デアルト云フコトヲ認メラレテ居ルノデアアル、現狀ヲ以テ安ンジテ居ラレズ、是ハ一ツノ階段ヲ是カラ昇ルノデアアルト是ガ認メラレテ居ル、又文部大臣ニ於テモ教育ノ制度ト實質トハ並ビ行ハレネバナラス、ソレニ過去五十年ヲ祝スルト共ニ次ノ五十年ニ於ケル發達ノ出發點タラシメ、此祝典ヲ意義アルモノニシタイト云フコトノ御抱負御經綸ノアルト云フコトヲ窺知スルコトガ出來マシテ、稍、人意ヲ強ウスルモノガアッタノデアリマス、之ヲ事實ニ現ハサル、上ニ於テハ、總理大臣及ビ文部大臣ハ如何ナル旅裝ヲ整ヘテ此旅行ノ門出ヲ爲サルノデアリマスカ、未ダ今日マデ靴一ツ持出サ

レタ様子モ見ルコトガ出來マセヌ、甚ダ心細ク存ジマスルノデアリマス、今少シク詳シク申シマスレバ、健全ナル思想ノ復興ハ……復シ興ル、健全ナル思想ノ復興ハ如何ニシテ得ベキカ、道德ノ頽廢ハ如何ニシテ之ヲ救ヒ、又其根本義ヲ如何ナル途ニ求ムベキカ、又教育ノ實質ヲ如何ニ改善シテ社會ノ實用ニ伴ハシムベキカト申スノデアリマス、先日總理ハ此席ニ於テ施政ノ方針ヲ御演說ニナリマシタ中ニハ、是等ノ點ニ付テハ何等承ハルコトガ出來ナカッタノハ、甚ダ遺憾トスル所デアリマスルガ、學制頒布五十年記念式ト云フ意義アル場所ニ於テ、而モ攝政宮殿下ノ御前ニ於テ、勅語ニ奉答スル意味ヲ以テ兩大臣ノ闡明セラレタ所ハ斯ノ如シトスレバ、必ズヤ確乎タル抱負經綸ノ存セラレテ居ルノデアアラウト信ズルノデアリマス、カルガ故ニ何卒此席ニ於テ兩大臣ヨリ明ニ御答アラムコトヲ切望シテ已ミマセヌ、折惡シク總理大臣ハ御席ニ御出デガゴザイマセヌガ爲ニ、本員ノ演說ヲ御聽キニナルコトガ出來マセヌノハ遺憾ニ存ジマスルガ、是ハ宜シク文部大臣ニ御傳ヘテ願ヒマシテ、相當ノ機會ニ於テ總理大臣ガ一國ノ大政ヲ燮理セラル、上ニ於テ、思想ノ惡化道德ノ頽廢ヲ、ドウシテ御覽ニナッテ居ルカト云フコトニ付テ十分ナル御考ヲ承リタイト存ジマス、文部大臣ハ御在席デアリマスルカラ、唯今マデ本員ノ述べ來タッタ所ニ付テ成ベク詳細ナル御抱負經綸ヲ承リタイト存ジマスル

〔國務大臣鎌田榮吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) 阪本君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、總理大臣ハ御質問モゴザイマシタガ、唯今ノ御言葉ノ如ク總理大臣ニハ私ヨリ傳ヘルコトニ致シマス、文部ニ關スルダケ御答イタシマス、第一條ノ點ニ付キマシテ、此金額ハ如何ニ之ヲ使用スルカト云フ此點ニ付テ御答ヲ致シマス、是ハデス、從來ノ衆議院其他ノ建議モゴザイマシテ、教育ノ爲、教育改善ノ爲、又市町村經濟ノ救濟ノ爲ト云フ、二ツノ目的ヲ以テ是ガ建議サレテ居ルノデアリマス、依テ此第一條ハ町村尋常小學校教員ノ俸給ニ要スル經費、其一部ヲ國庫之ヲ負擔ス、斯ウ云フコトニナッテ居リマス、主ニ是ハ教員ノ俸給ニ向ッテ支辨スル、即チ國庫ガ其一部ヲ分擔スルコトニナッテ居リマス、其結果町村ノ經濟ヲ緩和スルト云フコトト、ソレカラ教育ノ改善向上ヲ圖ルト云フコトガ、是ガ結付ケラレテ居ル譯ノモノデ、要スルニ教育ノ改善向上ト云フコトニ是ガ用ヒラレルコトニナル、衆議院ニ於キマシテモ其趣意ヲ以テ決議ニナッテ居リマ

ス、併ナガラ是ハドウシテモ切り離スト云フコトハ出來ナイモノデア、  
教員俸給ニ向ッテ一部ヲ國庫ガ分擔スレバ、町村ハソレダケ經濟ニ於テ緩和  
サレルト云フコトハ無論ノ話デアリマスカラ、即チ町村經濟ノ緩和ト教育ノ  
向上改善ト云フ、此二ツノ目的ガ一ツノ國庫負擔法ニ依ッテ達セラレル譯デア  
ル、又此ノ國庫金ノ如何ナル效用ヲナスカト云フコトハ、町村ノ状態ニ依ッテ  
違ッテ參ル、例ヘバ俸給ガ十分ニ拂ヘナイト云フ所ナラバ、此ノ國庫金ノ増  
額サレタガ爲ニ、ソレヲ十分ニ拂フコトガ出來ルヤウニナリ、又從來代用教員  
ヲ使ッテ居リマシテ正教員ヲ使フコトガ出來ナイト云フヤウナル資力ノ弱イ  
所デハ、努メテ之ヲ正教員ニ取換ヘルト云フヤウナコトモ此増額ニ依ッテ出  
來ルノデアリマス、併ナガラ國庫金ガ此教員俸給ノ爲ニ非常ニ困窮ヲ覺エテ  
居ルガ、併ナガラ拂フモノハ拂ハナクチャナラヌト云フ所ニ其金ガ參レバ、  
ソレガ非常ナ重味ヲ輕減ヲスル、負擔ガ輕クナル譯デアリマスカラ、教育改  
善ノ目的ヲ達シツ、町村ガ大ニ經濟サレテ緩和サレルト云フコトニナル譯  
デ、併ナガラ衆議院ニ於キマシテモ主トシテハ教育ノ改善ト云フコトニ用  
ヒラレルト云フコトノ精神ヲ以テ決議ニナッテ居リマス次第デ、當局ニ於キマ  
シテモ矢張り其意志ヲ以テ之ヲ實行シテヤル積リデアリマス、第四條ヲ設ケ  
マシテ或市ニモ此増額ヲスルト云フコトハ、是ハ丁度市ト申シマシテモ大都  
市ト小都市ト、市トナッテ居ルモノノ中ニモ、資力ノ餘リ強クナイモノハ、  
丁度市町村ニ準ズベキモノガアリマス、是ハ人口三萬以上ノ町村ニ比シマシ  
テ其資力ガ餘リ變ラナイ、寧ロ劣ル所ガアル、是等ノモノヲ市ノ方ノ取扱ノ  
中ニノミ入レテ仕舞ッタノデハ餘程窮迫ヲ覺エマスカラ、斯ノ如キ資力ノ  
弱イ方ノ市ニ向ッテ其幾ラカノ増額ヲ致スト云フコトガ必要デアリマセウ、  
條文ニ示スガ如キ方法ヲ以テ、其普通ノ市町村トシテ受ケタ所ノ二分ノ一ヲ  
越エザル範圍ニ於テ増額ヲスルト云フコトデ、早く申シテ見マスト云フ  
ト、町村ノ中デ資力ノ弱イモノニ向ッテ特別増額スルガ如ク、市ノ内ノ資力ノ  
弱イモノニ向ッテハ矢張り五割以下ノ増額ヲ致シテ居ル、斯ウ云フ趣意ニナッ  
テ居リマス、此法案ニ對シテハ御質問ハ二箇條デアッタト思ヒマス、ソレカラ  
其次ニハ我國固有ノ道徳ガ段々頹廢ヲ致シ思想ガ益々惡化スル所ノ状態デア  
ル、恰モ之ヲ財界ニ喩ヘテ申セバ即チ破綻ニ赴イテ居ル、斯ウ云フ御説デアリ  
マス、此點ニ付テハ人々ニ依ッテ之ヲ破綻ト見ル人モ有リ、又ソレ程ニ見ナイ  
人モアリマセウ、併ナガラ兎ニ角思想ノ動搖シテ憂フベキ状態ニアルト云フ

コトハ是ハ認メナケレバナラス、從ッテ先ヅ此德育道徳ヲシテ益々向上セシム  
ル、假令道徳ノ頹廢ガドレ程ノ程度ニアルニ致シマシテモ、道徳ノ向上ヲ圖  
ルト云フコトハ教育上第一義トシテ大切ナコトデアリマスカラ、之ニ向ッテ  
ハ當局ハ無論ノコト、國民相協力シテ其點ニ向ッテハ、大ニ努力シナケレバ  
ナラス、如何ナル方法ニ於テ之ヲ致スカト申セバ、申ス迄モナク教育勅語ノ  
御趣旨ヲ益々發揚致スト云フコトハ無論ノコトデアリマスケレドモ、當局ト  
致シマシテハ色々ノ其施設ヲ致シテ居リマス點デ申シマスト云フト、先ヅ第  
一、國民全體ノ思想ヲ堅實穩健ニシテ、而シテ其批判力ヲ備ヘルト云フコトガ  
必要デアリマス、ソレハ何デモ耳ニ聞クモノ眼ニ見ルモノニ付テ、直グニ心  
ヲ動かスト云フノデハイケナイカラ、物ノ是非善惡ヲ差別ヲシテ、善キモノニ  
從ヒ惡シキモノハ避ケルト云フコトノ、善惡邪正ヲ識別スル所ノ批判力ト云  
フモノヲ確實ニスルト云フコトニ努メナケレバナラス、是ハ其方法ニ付キマ  
シテハ教育上種々アルコトデアリマシテ、一言二言ニシテ盡スコトハ出來ナ  
イノデアリマス、併ナガラ學校ニ於テハ成ルベク其點ノコトニ努メ、又學校教  
育以外ノ社會的教育ト云フモノニ向ッテ大ニ努力シナケレバナラス、文部當  
局ノ經營ヲ致シテ居ル、例ヘバ社會教育課ナドノ致シテ居ル仕事デハ、種々  
社會ニ行ハレル讀物、或ハ活動寫眞デアルトカ、或ハ演劇デアルトカ、其他  
講談類ト云フモノニモ能ク注意ヲ致シマシテ、ソレソレノコトヲ取リ計ラ  
ヒ、又例ヘバ過日來現ニ行ハレテ居リマス所ノ消費經濟ノ展覽會ヲ主ナル都  
市ニ設ケマシテ、其消費經濟ノ必要ナル所以ヲ示シ、生活改善ノ途ニ向ッテ  
國民ヲ導キ、又講習會ヲ設ケマシテ、ソレ等ノ趣意ヲ十分ニ徹底セシムベク  
講習員ヲ講習セシメテ、ソレゾレ地方ニ歸ヘシマスルヤウナコトヲ致シテ居  
ルノガ、先ヅ其實例デアリマス、ソレカラ唯今ノ御問ノ中ニ、文理科大學ヲ  
設ケルト云フガ如キハ、抑此國民ノ思想ヲ破壞シ、道徳ヲ頹廢セシムル所  
以トナリコソスレ、決シテソレ等ノ點ニ向ッテ益ハナイト云フ、サウ云フ御言  
葉ガアリマシタヤウデス、私ノ聞達カ知レマセヌガ、サウ云フ御言葉ガアリ  
マシタヤウデスカラ、是ハ一應辯ジテ置カケレバナラス、私共ハ文理科大  
學ナルモノガ、最モ此點ニ向ッテ有效ナモノト深ク信ジテ居ル、文理科大學  
ノ主ナル目的ハ、即チ教員ヲ養成スル、此教員トナッテ、ソレゾレ地方ノ學  
校ノ中堅トナルベキ人ハ、文ト理トノ知識ヲ兼ネテ思想ヲ有ッテ居ル人デナ  
ケレバナラス、成程、此理學ニ精通シタ人モ無論必要デアアル、文學ニ精通シ

タ人モ無論必要デアリマスケレドモ、唯文ニ偏シ、理ニ偏シタ人ノミデハイ  
 カス、文理ノ雙方ノ學ニ通ジテ、能ク一般ノ常識ト云フモノヲ有ツテ、學理  
 ニ通ジ常識ヲ備ヘタ人ガ、學校ノ校長トナリ、教頭トナリ、其他教員中ノ中  
 堅トナツテ指導ヲスルト云フコトガ、非常ニ宜シイコトデアアル、穩健著實ナ  
 ル思想ト云フモノハ、何ニ依テ出來ルカト云フト、其人ノ圓滿ナル知識ト、  
 圓滿ナル修養ガアレバコソ、能ク物ノ平均ヲ考ヘ、物ノ權衡ヲ慮テ穩健著  
 實ナル思想ヲ備ヘルコトガ出來ル、ソコデ種々專門ノ人ハ無論大切デアリマ  
 スケレドモ、教育ニ於テハ、寧ロ專門トシテハ少シク足ラザル所アリトモ、  
 廣ク文理ニ通ジテ、物ニ向ツテ穩健ナル判斷ヲ爲シ、正確ナル批判ヲスルト  
 云フ知識ヲ備ヘタ所ノ人ガ、最モ今日ニ於テ必要ヲ覺エル、之ヲ養成スルコ  
 トガ急務中ノ急務デアアル、即チ文科理科ヲ併合シタル所ノ文理科大學ヲ設ケ  
 ルト云フコトハ、阪本君ノ御説ノ如クニ、決シテ今日ノ道徳ヲ頽廢セシメ、  
 今日ノ思想ヲ紊亂セシムルト云フモノデハナクシテ全ク此弊ヲ救ハムガ爲ニ  
 致ス所ノ一ツノ方策デアアル、斯ク信ジテ居ル次第デアリマス、ソレカラ年限延長  
 テ、ドウカ御了解アラムコトヲ希望スル次第デアリマス、ソレカラ年限延長  
 ト云フコトハ、マダ是ハ未定ノコトデアリマシテ、之ニ付テ、御確答申上ゲ  
 ル譯ニハ行キマセヌガ、豫テ質問等ニ對シテハ、年限延長ノ意思アリト云フ  
 コトヲ答ヘテ居リマスカラ、之ニ付テモ、一應申上ゲテ置キマスルガ、年限  
 延長ヲスレバ何等ノ效果ガアルカト云フ、此點ニ付キマシテハ、今日ノ中學  
 ノ二年生、或ハ高等小學ヲ終ヘタ者ガ、社會ニ立ツテソレガ何ニナルカ、サ  
 ウスレバ六年ヲ終ヘタ者ハ社會ニ立ツテ、何ニナルカト云フ問題ガ起テ來ル  
 ノデアリマスガ、サウスレバ國民悉クヲシテ、五年モ十年モ十五年モ、修學  
 セシムルト云フコトハ、到底出來ナイコトデアリ、又無益ナコトデアアル、年  
 限延長ヲスルト云フコトハ、六箇年ニ於テ十分修養シ得ザル所ヲ、七箇年若  
 クハ八箇年ニシテ之ヲ修養セシムル、而カモ凡ソ人ノ能力ノ發達ノ順序ニ  
 ハ、ソレゾレ十歳ニシテ理解シ得ルコトモアレバ、十二三歳ニシテ理解シ得  
 ルコトモアル、サウシテ見レバ如何ニ學科ヲ立テマシテモ、相當ノ年齢ニ  
 於テ、相當ノコトヲ修得スルト云フコトガ、最モ必要ナルコトデアアル、即チ  
 國民トシテ、先ヅ一般ニ備ヘテ置カナケレバナラヌダケノ修養ヲ致スガ爲ニ  
 ハ、或ハ十年ニシテ出來得ザルコトガアル、或ハ十二歳ニシテ分ラヌコトガ  
 アル、之ヲ十三、十四マデ修養サセタナラバ、國民トシテノ義務、國民トシ

テノ權利、其他國家ニ盡ス所ノ要件ヲ體得サセルコトガ出來ルノデアリマ  
 ス、無論不完全ニハ違ヒナイガ、大體國民トシテ備フベキコトヲ、備ヘシ  
 ムルガ爲ニハ、或ル年齢マデ教育スルト云フ必要ガアルト云フコトハ信ジテ  
 居リマス、併ナガラ是ハ全ク未定ノコトデアリマスカラ、之ニ向ツテ餘リ御  
 答辯ヲ申上ゲル必要モナケレバ、又之ニ向ツテ酷ク御質問ニナル必要モナイ  
 カト、私ハ思ツテ居ルノデアリマス、最後ニ、過日學制頒布五十年ノ式典ヲ  
 舉行ヲ致シ、其節至尊ヨリ賜ハリマシタ所ノ御言葉ハ、誠ニ我々ノ肝ニ銘  
 ジ、有難ク拜誦イタシタ所デアリマス、要スルニ此五十年、過去ノ五十年  
 ト云フモノヲ經過シテ、教育ニ相當ノ進歩ヲ致シタコトハ、誠ニ喜ブベキコ  
 トデアアルガ、今後ノ五十年ト云フモノハ、過去五十年ニ於テ進歩シタ如ク、  
 又此過去ノ五十年ヲシテ意義アラシメ、過去五十年ヨリ一層ノ進歩ヲ次ノ五  
 十年ニ於テ見ルベク、茲ニ一ツノ時代ヲ劃シテ、茲ニ教育ニ付テ努力スルヤ  
 ウニ致セト云フ御趣意ト、私ハ拜誦イタシマシタ、而シテ斯ル御言葉ヲ拜誦  
 イタシマシタ以上ハ、此御言葉ノ御趣意ニ從ツテ、此五十年ヲ意義アラシム  
 ルト云フ爲ニハ、是ハ總理大臣ヲ始メト致シテ、私共ハ及ブ限リノ努力ヲ致  
 ナナケレバナラヌノデアリマス、然ラバ今日、其御言葉ニ從フダケノ準備ガ  
 悉ク出來テ居ルカト云フ仰セデアリマスガ、ソレハ出來ナイカモ知レマ  
 セヌ、此五十年ノ旅行ニ向ツテ總テノ旅裝ヲ整ヘルト云フコトハ、是ハ二箇月  
 ヤ三箇月デハ、恐ラク出來ナイダラウ、併ナガラ是ハ一日モ忽セニスルコト  
 ハ出來ナイ、日夕此御趣意ヲ奉體イタシマシテ、成ベク此教育ノ改善、道徳  
 ノ振興、思想ノ健全著實ニ進歩イタシマスルコトヲセナケレハナラヌコト  
 ハ、深ク感銘イタシテ居ル次第デアリマス、是ダケノコトヲ申上ゲテ御答  
 ト致シマス、尙ホ總理大臣ヘノ御質問ノ趣ハ私ヨリ傳達スルコトニ致マシ  
 ス

○阪本鈺之助君 段々承ハリマシタ中ニハ、御誤解ノ點モアリマスルヤウデ  
 スガ、尙ホ詳シイコトハ、何レ豫算委員會等ニ於テ御尋ネスルコトニ致シマ  
 スルガ、唯今承ハリマシタ中デ、文理科大學ノコトニ付キマシテハ全ク文部  
 大臣ノ御聽取違ヒデアリマス、私ガ文理科大學ト改名ヲスルコトハ思想ヲ惡  
 化スル、道徳ヲ破壊スル下云フヤウニ本員ガ述べタカノ如ク御述べデゴザイ  
 マシタガ、本員ハ左様ニハ申シマセヌノデゴザイマス、高等師範學校ト云フ  
 モノハ是ハ國民教育ノ本山ノデアアル、學制頒布以來五十年、是ガ高等師範學



校ガアツテ、府縣ニハ師範學校ガアル、是ハ其分派デアリマス、高等師範學校、府縣ノ師範學校ハ國民教育ノ淵源ニナツテ居、テ、全國ノ小學教員ノ是ガ母校デアアル、何トナク其處ニ一種ノ淵源ガアリ尊信ガアルノデアリマス、ソレハ一朝制度ノ何等カノ爲ニ文理科大學ナドト名前ヲ變ゼラレルト云フコトハ、確カニ淵源ノ尊信ヲ損スルモノデアルカラ、言ヒ換ヘテ見レバ、國民教育ノ退歩デアルト私ガ申スノデアリマス、其事ヲ申述ベタノデアリマス、ソレダケデ御分リニナツタコトト思ヒマスガ、唯疑ハシキハ文理科大學ト改メル所以ノモノハ、國民教育ノ衝ニ當ルモノハ文理ノ學識ヲ具ヘンケレバナラス、文理科大學ニ於テ文理ノ學識ヲ具ヘサセルノデアルト云フコトヲ重ネ重ネ詳シク御述ベニナリマシタガ、然ラバ一人ノ學生ガ文理科ヲ兼修スルモノデアルト云フヤウニ聞エマスノデアリマス、左様ナ譯デアリマセウカ、私共是マデ承知イタシテ居リマスノハ、文科ハ文科、理科ハ理科、詰リ一ツノ大學ニ併置サレルノデアツテ文理科ヲ兼修スルモノデナイヤウニ承知イタシマス、教員養成所ガ附屬シテ、出テ學校ノ教育ニ従事スルニハ、更ニソレ等ノ學科ヲ修メテ教育ニ當ルト云フヤウニ承知シテ居リマスガ、只今文部大臣ノ御説明ハ私共ノ聞イテ居ルコトト違ッタ新ナ御説明デアアルコトハ意外ニ存ジマスノデアリマスカラ、モウ一應伺ッテ置キタイト思ヒマス、年限延長ノコトハ、只今問題ノ場合デアリマセスカラ、モウ少シ申述ベタイト思ヒマスガ控ヘテ置キマス、併ナガラ是ハ重大ナ問題デアアルカラモウ一言ダケ、御答辯ニハ及ビマセヌガ申述ベマス、私ガ申シタノハ六年教育ヲ受ケテ出タ者ガ、社會ニ出テモ普通教育ノ力ト云フモノハ頗ル薄弱デアアル、而カモ高等小學、即チ唯今仰ッシャッタ年齢ノ相當ニ延ビテ居ル者ガ高等小學ヲ出タカラト云フテ、世ノ中ニ出シテモ大シタ用ヲナサヌ、中學ニ學年ヲ履修シタ者ヲ社會ニ出シテモ大シタ應用ガ出來ナイト云フノデアアルカラ、小學校ノ年限ヲ二年延長シタ所デ唯今通リノ有様デハ詰ラスデハナイカ、之ニ付テ大ニ御考デモアルカト思フノデアリマスガ、問題外ニナリマスカラ、他日ニ讓リマシテ御答辯ハ望ミマセヌ、ソレカラ教育勅語ト云フ、イツモ斯ウ云フコトニハ教育勅語ト云フコトガ出ルノデアリマスガ、教育勅語ガ眞ニ徹底イタシテ居ルナラバ、何モ本員等ガ痛嘆ヲシテ御質問ヲ致ス必要ハアリマセヌ、試ニ畏多キ申シ方デアリマスガ、此結構ナ教育勅語ガ殆ド形式ニナリマシテ、小學教員ハ國民教育ノ上ニ於テ教育勅語ノ捧讀ト云フコトヲ如何ナル場合ニモ致スノデアリマスガ、殆ド言不敬ニ互リマスカモ

知レマセヌガ、坊サンガ御經ヲ讀ムヤウナ意味ニナツテ居リマシテ、眞ニ教育勅語ノ言々句句々ヲ實踐躬行シテ參ルト云フ小學教員ニ覺悟ガアルヤ否ヤ、是ガ兒童ニ如何ニ徹底シテ居ルヤ否ヤ、徹底イタシテ居リマスレバ思想ノ惡化モ怖ルルニ足ラヌ、道德ノ頹廢モ決シテ招來シナイト存ジマスガ、之ヲ憂フル所以ノモノハ、此結構ナ教育勅語ガ動モスレバ形式ニ流レルト云フコトガ今日ノ教育ノ最モ病弊デアラウト存ジマスガ故ニ御尋ネシタ譯デアリマスガ、矢張り教育勅語ヲ御引キニナツテ居ルト云フコトハ、甚ダ歎ハシイノデアリマス、現在ノ施設ハドウデアアルカト御尋ネ申シテ見ルト、生活改善展覽會ヲ開クトカ、又社會教育デドウヤラシタ、ソレデ以テ道德ノ頹廢ヲ防ギ、思想ノ惡化ヲ妨ゲルト云フ御考ヘデ大層御手柄ノヤウニ仰ッシャイマスガ、是等ハホンノ一部分ノ枝葉デアリマス、根本ニ於テ文教ノ主宰者ハ、斯ウ云フヤウナ方針ニ向ッテ進ム積リデアアル、假ニ申シテ見マスレバ、日本ノ道德ハ何ヲ申シテモ儒教主義ガ根本ニナツテ居ル、モウチット儒教主義ヲ鼓吹シテ、上大學ヲ初メ小學ニ至ル迄、小學カラ大學ヲ讀マセロ、中庸ヲ讀マセロト申スノデハアリマセヌガ、儒教主義ノ徹底スルヤウニヤッテ行ク考ヘガアルカドウカ、勿論之ニ代ハルニ宗教デモ宜イカモ知レマセヌガ、日本ハマダ外國ノヤウニ宗教ト云フモノガ徹底イタシタコトニ參ッテ居リマセヌ、而シテ固有ノ佛教ハドウデアアル、羅馬法王驅ハ使節ヲ遣ハサレルト云フト、坊サン達ガワソソ言ッテ騒グ、マルデ向ヒノ寡婦ガ隣リノ娘ノ嫁入ヲ羨ムト云フヤウナ態度デアアル、私ハ法王廳ノコトハ政費多端ノ際ニ餘計ナコトヲナサルト思ッテ居リマスガ、坊サン達ガ全國ニ立ッテワソソ言フト云フヤウナ事柄ハ誠ニ見苦シイコトデアアルト思フ、斯様ナ人達ガ日本ノ宗教ヲ扱ッテ居ッテハ、是ハ一向信用ガアリマセヌ、宗教ノ方面ニ矢張り道德維持ノ見込ハナイ、何ニ因ッテ教育勅語ガ結構デアアルカト云フコトハ、一片ノ形式ノミデハ私ニ言ハセルト無理デアアリマスマイカ、之ニ付テ何等カノ方法ガアルカ否ヤト云フコトガ、總理大臣及文部大臣ニ伺ヒタイノデアリマス、是ハ誠ニ重大ナ問題デアリマスカラ、一朝一夕ニ茲ニ御述ベ下サイト云フノデアアリマセヌガ、此點ニ付テ何ナリトモ感心シ得ル御答辯ヲ承ハレバ仕合セデアルト存ジマスガ、消費節約ノ宣傳クラキガ其方針ト云フコトデハ甚ダ心細ク存ジマス、之ニ付テ何カ御教示ガアレバ結構デアアル、ゴザイマセヌケレバ止メマシテ他日相當ノ機會ニ御尋ネスルコトニ致シマス

〔國務大臣鎌田榮吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) 再應ノ御尋ニ對シマシテ御答ヲ申シマス、最初此文理科大學ノ内容ニ付キマシテ私ノ御答ヲ致シマシタノハ少シ言葉ガ不完全デアリマシタカラ或ハ御聽取ガ出來ナカッタカモ知レマセヌ、之ヲ文理兩方ヲ兼修スルト申シマシタナラバ、兼修ト云フ言葉ガ惡カッタノデ、是ハ教育ニ從事スル人ヲ養成スル爲メノ學校デゴザイマスカラシテ、ソレヲ主ト致シテ居ル譯デアリマスカラ、ソコデ成ルベク先ヅ兩方ノ考ヲ有タセルト云フ趣意デアリマス、併シ理科ハ理科、文科ハ無論文科デアリマス、文理兩方ヲ學ブト云フコトニハナリマセヌ、併ナガラ教育學トカ心理學トカ、其教育ニ直接樞要ナ學科ハ、假令此文科デナクテモ之ヲ致サナケレバナラス、先ヅ主トシテ教育學ト云フモノハ、教育心理ト云フヤウナコトハ、是ハ此理科ノ者モ學修スル譯デ、又文科ノ者モ、文理ト云フモノヲ二ツ併セテ經營イタシマスガ爲ニ、直接ニ學バズトモ理學上ノコト化學上ノコトト云フモノヲ常ニ見聞ヲ致シテ、唯文ニノミ走ラズシテ、理科的考モ自ら頭腦ノ中ニ有ツコトガ出來ルト、斯様ナ意味ニ御解釋ヲ願ヒタイ、年限延長ニ關スルコトハ唯今ノ御話中ニモゴザイマシタ通り、當面ノ問題デゴザイマセヌカラシテ、別段是ニ付テハ御答辯ハ致シマセヌ、尙ホ此德育ノコトニ付キマシテハ縷々御述ベガゴザイマシタガ、如何ニモ御尤ナコトデアリマス、兎角形式ニ流レルト云フ弊ハ、是ハ當局ニ於キマシテモ大ニ憂ヘテ居ル所デアリマスガ、併ナガラ如何ニシテ其精神ヲ體セシムルカト云フコトニ付キマシテハ餘程苦心ヲ致シテ居リマス、又如何ニ苦心ヲ致シタ所ガ、是ガ完全ニ理想的ニ達シ得ルト云フコトハ、容易ニ期スルコトガ出來ナイノデアリマス、併ナガラソコ迄ニ行カナケレバナラス、今阪本君ノソシナラバ儒教主義ニ依ッテ之ヲスルト云フノカ、又ハ佛教ニ依ッテ之ヲ爲スカドウスルノダト云フ、具體的ニ之ヲ御答ヲ致スト云フコトハ差當リ出來マセヌ、成程我國ノ道德思想ヲ支配シ形造ッタ所ノモノハ、千年以上モ我國ニ行ハレタ所ノ種々ノ神儒佛、其他ノ教ニ依テ是ガ形成セラレ是ガ醇化セラレタモノデアリマス、是ヲ無視スルコトハ出來ナイ、非常ニ是ニ向ッテ重キヲ置カナケレバナラスノデアアル、ソレデ如何ナル形ニ於テ如何ナル方式ニ於テ、之ヲ扱フカト云フコトニ付キマシテハ自ラ考モアリマス、アリマスケレドモ國家ノ教育ヲ或一ツノ主義ニ依テ茲ニ德育ヲスル、委任スルト云フコトニハ餘程ノ考慮ヲ要スルコトデアリマス、併ナガラ阪本君ト略同様

ナ考ヲ當局ニ於テモ全ク致サヌ譯デハナイノデアリマス、此點ニ付キマシテハ十分ナル研究ヲ致サナケレバナラスト考ヘマス、併ナガラ其御考ト餘リ遠クナイ考ヲ有ッテ居ルト云フコトハ御承知ヲ願ヒタイ、宗教ノコトニ付キマシテ、羅馬法王云々ノコトガゴザイマシタガ、是ハ今日ヤカマシクナッテ居ルノハ全ク外交上ノ問題デアリマス

〔阪本君之助君「外交上ノ問題ハ答辯ニ及ビマセヌ」ト述フ〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) デハソレダケニシテ置キマス

○阪本君之助君 段々御答辯ヲ得マシテ感謝イタシマスルガ、唯今ノ文理科大學ノコトハ、マダ大ニ疑問ガアリマスルガ、本案ニテヨットモ關係ガゴザイマセヌ、餘リ質問ヲ致スト御差止メニナルカト思ヒマスカラ、他日はハ質問イタスト云フコトニ致シマシテ、本員ハ此場合ニ於ケル質問ダケハ是デ打切りマス

○議長(公爵徳川家達君) 岡田良平君

○岡田良平君 議席カラチヨット伺ヒマス、私ノ御尋ネ致シタイト思ッテ居ルコトハ、阪本君カラ御尋ガアリマシテ一應ノ御答ハアッタノデアリマスガ、マダ十分ニ諒解イタシマセヌノデ重ネテ御尋ヲ致シマス、極メテ簡單ナ事柄デゴザイマスガ、今回ノ小學校費用ノ國庫負擔金三千萬圓ヲ増加スルニ付キマシテ其使用ノ方法デゴザイマス、ドウ云フ風ニ御用キニナルノデアルカ、或ハ教育改善ノ爲ニ御用キニナルノデアルカ、或ハ市町村ノ負擔輕減ノ爲ニ御用キニナルノデアルカ、其點ヲ明ニ承ッテ置キタイト思フノデアリマス、先刻阪本君ヘノ御答ニ於キマシテハ、此二ツト云フモノハ引分ケルコトガ出來ナイモノデアルト云フ御話デアリマシタガ、併ナガラ現今ノ狀態ニ於キマシテハ、是ハ明カニ區別スルコトノ出來ル場合デアルト思フノデアリマス、即チ市町村ト云フモノハ、其全力ヲ盡シテ今日教育其他ノ事業ニ從事イタシテ居ルノデアリマス、殆ド市町村ト云フモノハ其力ノ限リヲ盡シテ居ルト申シテモ宜イカト思フ、デアリマスルカラ最早此上ノ負擔ニ堪ヘヌト云フ狀況デアッテ、非常ナ苦心ヲ訴ヘテ居ルト云フコトハ御承知ノ通りノ狀態デアアル、ソレデ今日國庫カラ三千萬圓ノ支出ガ増加イタシマスニ付キマシテハ、更ニ此上ニ教育上ニ付テ進歩改善ヲ圖ルコトノ御計畫ガアルノデアアルカ、但シハ是迄市町村ニ於キマシテ力ノ限リヲ盡シテ教育ノコトニ從事イタシテ居ルノデアリマスルカラ、詰リ國庫デ負擔スベキ所ノ俸給ノ大部分ト云フモノヲ、是

ヲモ市町村が擔任シテ居ルノデアリマスカラ、之ヲ國庫が即チ肩代リト致シマシテ、此三千萬圓ト云フモノヲ、此市町村義務教育ニ從事シテ居リマスル教員ノ俸給ニ充テマシテ、即チ從來市町村支シテ居リマシタ教員ノ俸給ノ中デ、國庫カラ支出スルダケハ之ヲ輕減スルト云フコトニ致スノデアリマセウカ、此二ツヲ明カニ區別スルコトガ出來ルト思フ、即チモウ少シ具體的ニ申シマセウナラバ、此三千萬圓増額ニナリマシタニ付テ、當局者ハ或ハ義務教育ノ延長トカ、或ハ補習教育ヲ義務ニスルトカ、或ハ其他教育上ニ付テ積極的ノ施設ヲ爲スト云フ御見込デアリマスカ、但シハ是等ノ施設ト云フコトハ此場合ハ何モ御計畫ハナクテ、單ニ從來市町村ノ負擔ヲ致シテ居ッタモノヲ國庫ガ代テ之ヲ負擔シテヤルト云フコトニ、此三千萬圓ハ御使用ニナルノデアリマスカ、此點ヲ明カニ致シテ置キタイノデアリマス、私ハ此三千萬圓ヲ以テ全部積極的ノ施設ニ充テナクレバナラヌトハ思ヒマセヌ、初メテ小學校ニ對シテ國庫カラ支出金ヲ致シマシタ時ノ事情ト、今日ハ非常ニ事情ガ違ッテ居リマス、大正六年ニ初メテ國庫カラ一千萬圓ノ支出ヲ致シマシタ時ニハ、教員ノ俸給ノ平均ガ正教員ニ於キマシテ僅ニ二十圓少シ餘デアリマシタ、而シテ市町村ノ情況ハドウカト申シマスルト、當時米價モ相當高クアリマスルシ、其他農家ノ副産物モ相當ノ價ヲ維持シテ居リマスルシ、又市町村ノ費用ハ餘リ他ニ多ク要シナカッタノデアリマスカラ、市町村ノ經濟ハ割合ニ緩カデアッタノデアリマス、ソレ故ニ當時國庫カラ支出イタシマシタ千萬圓ト云フモノハ、是ハ殆ド全部教員ノ俸給ニ充テラレタノデアリマス、併ナガラ今日ハ其時分ト非常ニ事情ガ違ッテ居リマシテ、教員ノ俸給モ當時ノ殆ド三倍ニ増加イタシテ居ルノデアリマス、勿論之ヲ以テ十分トハ申サレマセヌガ、併シ之ヲ當時ニ比較シテ見マズレバ、幾分力、マシト云フテ然ルベキト思フノデアリマス、又町村ノ經濟ノ狀況ヲ見マスト、是ハ當時ニ比較シテ非常ナル窮迫ヲ告ゲテ居ルノデ、是モ當時ニ比較スルト三倍以上ニ増加シテ居ル、殆ド教育ニ力ヲ盡シテ居ルト云フ状態デアリマスル此際デアリマスカラ、國庫カラ支出イタシマシタル費用ハ、是ハ市町村ノ負擔ヲ輕減スルト云フコトニ專ラ使用スルト云フコトモ、必シモ非デハナイト思フ、要スルニドチラデアアルカト云フコトニ付テハ明カナ御答辯ヲ伺ッテ置キタイト思フノデアリマス

〔國務大臣鎌田榮吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) 御答へ致シマス、今回ノ三千萬圓ヲ以テ義務教育年限ノ延長トカ、或ハ補習教育ノ義務制ヲ立ツルトカ云フヤウナコトニ使用スルト云フ考ハゴザイマセヌ、而シテ是ハ町村ノ状態ニ依リマスルト、或町村ハ例ヘバ教員給ノ平均額ニ達シナイト云フコトナラバ之ヲ達セシムル、即チ教員俸給ニ之ヲ使ヒ、又代用教員ト云フ者ヲ使ッテ居ルモノモ、全ク金ガ無イ爲ニ代用教員ニ甘ンジテ居ッタモノガ、此金ヲ得テ正教員ヲ聘スルコトガ出來ル、立入ッテ申セバ教員給ニシタ所ガ、例ヘバ百圓ノ給料ヲヤラナケレバナラヌ者ニ七十圓遣ッテ居ル、名義上三十圓ハ寄附ニシテ居ルト云フコトガアリマス、ソレモ或ハ町村ノ經濟ヲ緩和スル方法ト思ヒマス、最初ニ經濟ヲ緩和シ、教育ヲ改善充實スルト云フコトノ二通りノ目的ヲ有ッテ居ルト云フコトヲ申上ゲタノハサウ云フ意味デゴザイマス、之ヲ以テ積極的ニ義務年限ヲ延長スルトカ何トカ云フ意味ハ有ッテ居リマセヌ、ドウゾサウ云フ風ニ……

○岡田良平君 積極的ノ御計畫ノナイト云フコトハ承ハリマシタ、サウ致シマスルト或ハ俸給令ヲ改正スルトカ、或ハ又府縣ニ對シテ特別ノ訓令デモ御發シニナッテ、サウシテ教育ニ對シテ斯ノ如ク發達ヲ圖レト云フ御手段デモ御執リニナルカ、サウ云フコトハ全クナイト承知シテ宜シイノデゴザイマスカ

〔國務大臣鎌田榮吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) 唯今ノ御尋ネノヤウナコトハ致シマセヌ積リデゴザイマス

○岡田良平君 今回國庫支出金三千萬圓増加セラレマシタニ付テハ何等積極的ノ施設ハナサラヌ、或ハ訓令ヲ發スルト云フコトモナサラヌト云フコトモ承ハリマシタ、之ヲ私ハ非議イタスノデハナイ、或ハ相當ノ御考デアラウト思ヒマス、併シ左様ナサレマシタ結果ハドウ云フ風ニ至ルデアラウト申シマスルト、今日市町村經濟ト云フモノハ非常ナ窮迫ヲ告ゲテ居ルト云フコトハ申スマデモナイ狀況デアリマス、殆ド農村ノ如キニ至リマシテハ、荒廢ノ端ヲ發シテ居ルト申シテ宜イクラキ、此儘ニシテ置キマシタナラバ、數年後ニハ農村ハ悉ク荒廢シテ仕舞フダラウト云フ心配ヲシテ居ル今日ノ狀況デアアル、市町村經濟ヲ緩和スルト云フコトハ、今日ニ於キマシテ洵ニ焦眉ノ急デアラウト思フノデアリマス、斯様ナ焦眉ノ急ニ際シマシテ、國庫カラ幸ニ

三千萬圓ノ増額ヲ支出スルト云フコトガ出來ルコトニナリマシタカラ、之ハドウシテモ此市町村ノ焦眉ノ急ヲ救フト云フコトニ用ヒラレルト云フコトハ、是ハ私ハ當然ノコトデアラウト思フ、當局者ガ何カ積極的ノ施設ヲナサルト云フコトガゴザイマスルナラバ、是ハ格別デアリマスルガサウデナク、之ヲ市町村ノ自由ニ委セルト云フコトナラバ、是ハ殆ド全部焦眉ノ急ニ應ズルト云フコトニナルコトハ、是ハ疑ヒモナイコトデアラウト思ヒマス、丁度眉毛ニ火ガ點イテ、額ニ火膨レガ出來ルト云フヤウナ時ニ方ッテ、滋養物ヲ食ベテ身體ノ榮養ヲ好クシテ行クト云フ考ヲスル違ナイノデアリマスガ、自教育ノ改善ト云フコトニ付テハ、是ハ全國多クノ町村ノコトデアリマスカラ、何分取除ケハゴザイマセウガ、大體ニ於テ此教育ノ改善ト云フコトニ三千萬圓ハ殆ド用ヒラレヌモノト私ハ斷定スルコトガ出來マセウカト思ヒマス、是ハ私ハ已ムヲ得ヌカト思ヒマス、是ハ惡イトハ申シマセス、併ナガラサウ致シマスルト考ヘナケレバナラスコトハ、前内閣、前々内閣以來、此專門教育、高等教育ノ爲ニハ、少ナカラヌ國費ヲ費シマシテ、我國ノ高等程度ノ學校ノ數ト云フモノハ、殆ド外國ニ類例ヲ見ヌ程ノ多數ノ學校ガ増設セラル、ニ至リマシタルニ拘ハラズ、過去四五年ノ間ト云フモノハ、此小學教員ノ爲ニ、普通教育ノ爲ニ、殆ド何等施設サレルコトガナカッタ、此點ハ山川男爵カラ御質問ガアリマシタガ、山川男爵ハ中橋文相ハ教育ノコトニ素人デアリマスカラ斯様ナル計畫デアアル、鎌田君ハ教育ノコトニ付テハ多年ノ御經驗ガアル筈ダカラ、左様ナコトハナイ筈デアアル、斯ウ云フコトニ付テ意見ヲ述ベラレタノデアリマスルガ、私モ矢張り同ジヤウナ感じヲ持チマスノデ、今回三千萬圓ノ國庫支出金ヲ支出セラレマシタルガ故ニ、如何ニモ小學教員ノ爲ニ國庫ガ支出サレタカノ如クニ思ヒマスケレドモ、是ハ市町村負擔ノ輕減ニ全部用ヒマスモノト見マスルナラバ、小學教育ノ爲ニ矢張り依然トシテ政府ハ何等施設スル所ハナク、獨リ高等專門ノ教育ニバカリカヲ專ラニサル、モノデアッテ、所謂教育ノ施設上ニ於テ權衡ヲ得テ居ラヌト云フコトハ、依然トシテ存スルコトデアラウト思ヒマス、即チ鎌田君ハ教育ノ方面ニ於キマシテハ定ニ偉イ權威デアアルニモ拘ハラズ、前ノ山川君ニ言ハセマスルト、教育上ノ素人ノ施設ヲ其儘踏襲セラル、ト云フコトニナリマシタノハ寔ニ遺憾ノコトト考ヘマス、併ナガラ是ハサウデナイ、今回ノ三千萬圓ニ依テハ普通教育ヲ大ニ改善ヲ圖ルト云フコトデアリマシタナラバ、是ハ私鎌田君ハ

サウ云フ御答ガアルカモ知レマセヌガ、事實上出來ナイコトデアルト私ハ考ヘマス、尙ホ私ノ申シマシタコトニ付テ、誤ッタ點ガアリマスレバ御辯明ヲ請ヒマス、別段ニ御辯明ヲ要求スル譯デアアリマセヌ、尙ホ此點ニ付テハ他日質問ヲ致シ、又私ノ意見ヲ陳述イタシタイト考ヘマス、唯今御辯明ガアレバ承リ、御辯明ガナケレバ之ダケニ致シテ置キマス

〔國務大臣鎌田榮吉君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(鎌田榮吉君) 御答イタシマス、此三千萬圓増額ガ、何等教育上ニ積極的ニ計畫ヲシナイ、教育ノ程度ヲ上ゲナイデヤナイカト云フ、斯ウ云フ御尋ノヤウニ伺ヒマシタ、私ノ考ハサウハ思ヒマセヌ、今日御説ノ如クニ市町村ノ財政ハ非常ナ窮迫ヲ告ゲテ居ル、ソレガ爲ニ今日ノ教育ノ程度ヲ維持スルト云フ上ニ非常ナ困難ヲ感ジテ居ル、動モスルト云フト教育ノ程度ヲ低下シナケレバナラス、斯ウ云フ……教師ノ給料モ御説ノ如ク三倍ニナッテ居ル、此三倍ヲ維持スルト云フコトハ、今日ノ狀態ニ於テ非常ナル困難デアアル、從ッテ之ヲ維持スルコトガ出來ナケレバ、即チ教員モ優秀ナル教員ヲ失ヒ、學校モ低下スルト云フ譯デアリマスカラ、此三千萬圓ト云フ助ケ船ガ行ク爲ニ之ヲ維持スルコトガ確ニ出來ル、消極的ノ教育改善ノ向上ヲ圖ッタモノデアリマス、又從來資力足ラズシテ、劣等ナル教育ニ甘ンジテ居リマシタモノモ、其増額ヲ得タガ爲ニ、優秀ナル教員ニ代ヘルコトガ出來ル、是ハ積極的ニ進ムコトガ出來ルデアリマス、併ナガラ唯惜ムラクハ、此金ヲ以テ總テ積極的ニ進ムコトガ出來ルカト云ヘバ、ソレハ私ハ出來ナイダラウト思フ、斯ノ如キ架空ナ事ヲ致シマスレバ、又困難ヲ感ジテ、折角上ボセマシタ教育ノ程度ヲ低下シナケレバナラス、今日有ッテ居ル地步ヲ高メ、更ニ一層進ムコトガ出來ル、ドウシテ出來ルカト云フト、今日ノ町村ノ窮迫ノ狀態ハ永ク續クモノデアリマセヌ、今日ハ最モ窮迫ノ狀態ニ居リマスカラ、將來又是ハ幸運ニ向ッテ來ル見込ガアルカラ、サウスレバ町村ノ自發ノ力ヲ以テ、教育ノ向上ヲ圖ルコトガ出來ル、國庫ノ負擔金モ過日來衆議院デ答辯シタ如ク、是ニ止マルモノデナイ、先ヅ教員給ノ半額マデ財政ガ許スナラバ進ミタイト斯ウ考ヘテ居リマス、又教育義務年限ガ延長サレテ、教員數ガ殖エマスカラ、即チ全體ノ負擔金ガ殖エマスカラ、國庫ノ補助ノ増加モ伴ッテ殖エテ來マスカラ、其方ニ於テ三千萬圓ノ支出デモ、教育上ノ施設ニ效果ガナイト云フコトハ申サレナイト思ハレマス、尙ホ過日ノ山川男爵ノ御質問ニ

因シテノ御尋デアリマスガ、前内閣ニ於テハ、高等教育ノ擴張ノミニカラシテ居ル、從テ國民教育ノ改善ヲ圖ラナカッタ、然ルニ今回ノ現内閣ニ於テ三千萬圓ノ増額ヲシテ、國民教育ノ改善ヲ圖ルガ如クニ見エタケレドモ、其實ハ一向改善ニナラス、而シテ一方ニ於テハ、矢張り高等教育ノ擴張ヲ致シテ居ルト云フコトハ、是ハ甚ダ其意ヲ得ナイト云フヤウナ御趣意ニ承リマシタガ、是ハ私ハサウデナイト思フ、山川男爵ノ仰セラレタ如クニ、普通教育ヲ三千萬圓ノ増額ニ止メル、而シテ一方高等教育ノ爲ニ多額ノ金ヲ使用スルト云フコトハ甚ダ宜シクナイト云フ、斯ウ云フ御説ノヤウニ伺ヒシマタケレドモ、是ハ先日モ縷々申上ゲマシタ通り、高等教育ノ擴張ハ六箇年計畫ト云フモノヲ致シマシタモノ、詰リ缺漏ヲ補フ、所謂擴張整備ト云フヤウナ言葉ヲ用ヒテ居リマスガ如クニ、之ヲ完成セシメル爲ニハ、其計畫ノ最初ノ趣意ヲ完ウスル爲ニハ、今回ノ所謂昇格案ト云フモノヲヤラナケレバナラス、而シテ其金額ハ如何程デアアルカト申セバ千萬圓強デアリマス、此千萬圓ノ金額ハ、是ハ財政上ノ都合上カラデモアリマスシ、學校ノ設備ノ都合カラデモアリマスガ、六箇年ニ千萬圓ヲ支出スルト云フノデアリマス、一方ノ普通教育ハ、四千萬圓ヲ毎年出シテ行ク、尙ホ其上ニ、又餘裕ガアレバ之ヲ増加シテ行カウ、永遠ニ此四千萬圓ノ金ヲ普通教育ノ爲ニ、國庫ガ出シテ行カウ、一方ハ、六箇年間ニ千萬圓ノ金ヲ出ス、即チ是ハ年ニ二百萬……百八十萬ノ金ヲ、六箇年出スト云フコトデアリマスカラ、サウ高等教育ノ爲ニ莫大ノ金ヲ使ッテ行クト云フ御説ハ當ラナイヤウニ考ヘマスガ、併ナガラ之モ出サズシテヤレバ宜シイノデアリマスガ、必要ニ迫リ是非此計畫ヲ完備シテ行クニハ、已ムヲ得ナイコトデアリマスカラ、其點モ御諒承下サイマシテ、高等教育ニ決シテ無駄ノ金ヲ使フ譯デナイ、高等教育ニ偏シテ、普通教育ニ一向何等ノ設備ヲシナイデハナイカト云フヤウナコトハ、私ハ、モウ一ツ御考ヲ願ハナケレバナラス、サウシテソレガ財政ノ窮迫ノ町村ノ状態デアリマスカラ、今回ノ金ハ大ニ窮迫シタ教育費ト云フ流レヲ傳ヒツ、窮迫ヲ大ニ緩和スルダラウト考ヘテ居リマスガ、又町村ノ、詰リ經濟ガ段々裕カニナリ、及其他總テ此稅制等ノ關係カラシテ、町村ニ餘裕ヲ生ズルト云フコトニナレバ、國庫負擔金ト云フモノハ、教育改善トカ、色々ノ途ニ向ッテ、是ハ進ムコトガ出來ル時ガ來ルダラウト云フコトヲ、豫メ期シテ居リマス、是ダケ申上ゲテ置キマス

○岡田良平君 唯今承リマス、此三千萬圓増額ニナツタガ爲ニ、消極的ニ、教育上ニ影響ヲ及ボスダラウト云フコトヲ御話ニナリマシタ、其點ハ能ク諒承イタシマシタ、成程此三千萬圓ノ支出ガ出來ナカッタナラバ、現狀ヲ維持スルコトガ出來ナイダラウト云フコトハ御同感デアリマス、必ズ之ヲ以テ現狀ヲ維持スルコトガ出來ルト思ヒマス、併ナガラ此三千萬圓ノ支出シタ爲ニ、普通教育ノ状態ガ今日ヨリ善クナルト云フコトハ考ヘラレナイト思フ、即チ、ヨリ惡クセスト云フ消極的ノ效力ハアルダラウト思ヒマスガ、積極的ニ今日ノ現狀ヨリ、ヨリ善クナルト云フ效果ハアルマイト思ヒマス、即チ現内閣ニ於キマシテハ、普通教育ヲ、ヨリ善クスルト云フコトニ對シテハ、御盡力ガ足ラヌト云フコトヲ申シテモ、過酷ナ評デナイト思ヒマス、而シテ之ニ反シテ、高等教育ノ方ニ於テハ、六箇年計畫ト云フノガアルノニ、更ニ第二期ノ擴張ヲスル、六年計畫ガ了ラヌ中ニ、更ニ第二期計畫ヲスルト云フノハ、如何ニモ高等教育ニ重キヲ置カレテ、而シテソレニ比較シテ見マスト、此普通教育ヲ度外ニ置カレルト云フ非難ハ免レルコトハ出來ナイト思ヒマス、鎌田君ガ先刻斯ウ云フコトヲ言ハレマシタ、前ノ六箇年計畫ヲ完成スルガ爲ニ、第二期ノ計畫ヲスルト云フコトヲ言ハレマシタ、過般山川男爵ノ御尋ニ對シテ、高等學校ノ増設シタガ爲ニ、高等學校ノ卒業生ガ非常ニ多クナル、從テ此高等學校ノ卒業生ヲ收容スル場所ガナケレバナラスカラ、已ムヲ得ズ第二期ノ計畫ヲヤッタノデアルト、斯ウ云フ御説デアリマシタ、ソレハ何か御間違デアアルカト思ッテ居リマシタガ、今日ノ御答モ殆ド同様ノ趣旨ト承ツタノデアリマス、ナゼ、ソレハ御間違デアアルカト、サウ考ヘル其理由ハ、其第二期ノ計畫ト云フモノハ、決シテ高等學校ノ卒業生ヲ救フト云フ意味合ノモノデナイノデアリマス、ドウシテ、サウ申スカト云フナラバ、文理科大学ト云フモノヲ置カレヤウト云フノデアリマスガ、文科理科ハ既設ニ於テ尙ホ澤山ノ收容餘力ガアルノデアリマス、高等學校ガ全部完成シマシテモ、此文理科ハ既設ニ於テ收容スルコトガ出來ルノデアリマス、況ンヤ東北大學、九州大學ト云フモノニ、更ニ文科大學ヲ置カレノデ、サウシテ見ルト、此卒業生ヲ收容スル所ハ綽々トシテ餘裕ガアル譯デアリマス、何モ強ヒテ、此際文理科大学ヲ増設サレルト云フコトハ、高等學校卒業生收容ノ意味カラ云ヘバ、何等意味ハナイノデアリマス、高等學校卒業生收容ノ意味カラ言ヒマスナラバ、此文理科大學ト云フモノハ、高等學校以外ノ學校カラ

這入ルト云フコトハ、是ハ拒絕セヌケレバナラヌ、然ニ此文理科大學ノ計畫ハドウカト申シマスルト、此收容人員ト云フモノハ大部分ハ高等師範學校ノ卒業生ヲ容レルト云フ話デアル、是ハ必ズサウデゴザイマセウ、高等師範學校ノ卒業生ヲ大部分收容スルト云フナラバ、此六年計畫ハ完成ト云フコトノ意味ニハナラヌト云フコトハ分リキタコトデアル、ソレカラ又更ニ此專攻科ヲ全國ノ專門學校、十六校デスカ十八校デスカヲ通ジテ設置サレルト云フコトデアリマスガ、是ガドウシテ高等學校ノ卒業生收容ニ關係ガアルノデゴザイマセウカ、高等學校ノ卒業生ヲ、專攻科デスカ研究科デスカ、名前ハ違ッテモ實ハ同ジモノデアル、之ニ收容スルト云フコトハ決シテナイデゴザイマセウ、サウシテ見マスルト、之モ亦高等學校増設ト云フコトニハ何等關係ノナイ計畫デアル、之ヲ要スルニ、所謂第二期擴張ト云フ今回ノ計畫ハ高等學校高等專門學校ノ擴張ニ非常ニ政府ハ重キ、非常ニ國費ヲ消費サレルト云フコトデアリマス、先刻鎌田君ノ御話ニ六年間ニ互ッテ千萬圓ノ金額デアル、餘リ大キクナイト云フ御話デアル、成程臨時費ハ千萬圓デアラウ、經常費ノコトヲ御忘レニナッテ居ル、經常費ハ確カニ五百萬圓カ、ル、是ハ毎年五百萬圓費サナケレバナラヌ譯ニナルノデアリマス、決シテ是ハ少ナイ金額デハナイト思フ、普通教育ヲ大成スルニハ全國ハ甚ダ廣ク專門教育ヲ相手ニスルモノハ比較的少數デアル、其數ヲ比較シテ見マスレバ、五百萬圓ト云フ金額ハ、此高等教育ヲ受ケヤウト云フ者ノ爲ニ消費スルト云フコトハ、金額ガ甚ダ多イノデアリマス、此兩者ノ間ノ權衡ヲ頗ル失シテ居ルモノト私ハ考ヘルノデアリマス、要スルニ是ハ此昇格問題ニ關係シタコトニナリマスノデ、尙他日御尋ネ致サウト思ヒマスカラ、今日ハ之ヲ打止メテ置キマス

○國務大臣(鎌田榮吉君) 當席カラ失禮イタシマス、重ネテ申上ゲテモ同ジコトデゴザイマスルガ、此今回ノ三千萬圓増額ニ依テ普通教育ハ一向進歩ト云フヨリ唯退歩ヲ防グダケデアル、或ハサウカモ知レヌ、是カラ退歩ヲ防ギサウシテ進歩ヲシナイニシテモ、ドウシテモ退歩ヲ防グト云フコトガ急務中ノ急務デアル、尙餘力ガアレバ進歩スルコトモ出來得ルノデアリマス、或ハ今回ノ増額ダケデ幾分ハ進歩ハ出來ヤウト思ヒマス、併ナガラ之ニ依テ義務教育ノ延長補習教育ト云フコトニシテモ、此三千萬圓ノ金デハエライ働キヲスルモノデハナイノデアリマス、先ツ三千萬圓ハ三千萬圓ダケノ働キヲナシ得ルコトハ確カニアルト思フ、其結果ハ普通教育ノ退歩ヲ防ギ、又或點ニ於テハ普

通教育ノ進歩ヲ促スト云フコトニハ確カニナリ得ルコト、考ヘマス、ソレト同時ニ町村ノ經濟ハ茲ニ緩和サレル働キハ確カニアル、濫用セザル以上、アルコトト信ズルノデアリマス、而シテ此高等教育モ矢張力ヲ用ヒル、高等教育ニ力ヲ用ヒルノガ惡イト云フコトニ決ッテ居ルト云フコトナラバソレハ惡イカ知ラヌガ、高等教育並ニ普通教育ハ決シテ偏頗ニスルコトハイカナイ、普通教育ニ心ヲ用ヒテ高等教育ト云フモノヲ全ク怠ッテシマッテハナラヌ、ドウシテモ國家トシテハ詰リ雙方ヲ共進セシメルト云フコトニ心ヲ用ヒナケレバナラヌ、而シテ成程千萬圓ノ金ヲ六箇年ニ支出スルノハ決シテ少額デハナイ、唯三千萬圓ト云フ大數ニ比ベテ少額デアルト云フコトダケデアリマス、其利用ト云フコトニ至テハ決シテ兩者ニ優劣ハナイノデアリマス、是ハ全ク御議論……御意見ノ相違ト思ヒマス、ソレト十五校ニ研究科ヲ置ク、是ニハ決シテ高等學校ノ卒業生ヲ收容スル爲デハナイノデアリマス、御承知ノ如ク專門學校令第七條ニ研究科ヲ置クコトヲ得ル、豫科別科、研究科ヲ置クコトヲ得ルト云フコトヲ最初ニ規定サレテ居ルノデアリマス、其研究科ヲ此條項ニ依リテ十五校ニ置キマス、高等學校卒業生ヲ收容スル爲デナイ、先日ヲ山川男ニ御答ヲシタ如ク、專門學校ノ卒業生ニ特殊の研究ヲサセタイ、又此教員ニ常ニ研究ノ便宜ヲ得ルガ爲ニ、ソレト同時ニ、其地方ノ向上等ニモ間接ニモ效果ガアルト云フコトカラ、是等ヲ主要ナル目的ト致シテ、研究科ヲ置ク譯デス、現ニ此條項ノ中ニアル、其條項ニ從テ置クノデアリマスカラ、ソレヲ強ヒテ私ハ議論ノアル譯ハナイト私ハ考ヘマス、ソレダケノコトヲ申上ゲマス

○岡田良平君 モウ質疑ハ止サウト思ヒマシタガ、段々御辯明ガアリマスルト、ドウシテモ疑ガ解ケマセスカラ、モウ一ツ伺フコトニ致シマス、三千萬圓ヲ支出スルノハ普通教育ノ退歩ヲ防グ爲デアルト云フ、是ハ分リマシタ、併シ私ノ方ノ希望スル所ハ、專門教育ヲ進メテ行クニハ、ソレト同時ニ普通教育ノ退歩ヲ防グダケデナク、積極的ニ進メテ貫ヒタイ、專門教育モ進メルト同様ニ、普通教育モ進メテ參リマシタナラバ、是ハ調和ヲ得テ居ルト申シテ宜シイ、併ナガラ普通教育ノ退歩ヲ防グダケデ、消極的ノ手段ニ止メテ置イテ、專門教育ダケヲ馬力ヲカケテ進メテ行クト云フノハ、權衡ヲ失スルコトニハナラヌカト申シタノデアリマス、ソレカラ專攻科ノ御話デアリマス、成程是ハ專門學校令ヲ制定サレマシタ當時ニ、研究科ヲ置クコトヲ得ルト云

フ箇條ハアルノデアリマス、其箇條ガアルニモ拘ハラズ今日マデ何レノ處ニ於テモ殆ド其研究科ノ必要ヲ認メマセヌノデ、殆ド一校モ研究科ト云フモノヲ設置シテ居ラナカタメデアリマス、然レ今同ノ計畫ハ同時ニ十六校モ專攻科ヲ置ク、斯ウ云フ話デアリマス、是ハ私ハ善イ惡イヲ申スノデハナイ、善シ惡シノ論ハ是ハ他日申シタイノデアリマスガ、例ヘバ之ヲ善イコトトイタシマシテモ、普通教育ニ對シテモ努力ト奮勵ヲ致シテ見マシタナラバ如何ナモノデゴザイマセウカ、此專門學校令制定ノ當時カラ定ツタ所ノ此研究科ト云フモノヲ、普通教育ハ度外視シテ、之ヲ施設スルコトヲ構ハズニ置イテ、此際十六校ヲ同時ニヤラナケレバナラスト云フ必要ハ何處ニアルノデアリマセウカ、例ヘバ其必要アリトシマシテモ、少ナクモ普通教育ノ進歩發展ヲ圖ルト云フコトニ對シテ權衡ヲ得テ居ラスト云フコトハ、是ハ鎌田文相ト雖モ御認メニナラナケレバナラスト思ヒマス、ソレハ御認メニナルノデアリマスカ

○國務大臣(鎌田榮吉君) 普通教育ニ付テカノ盡シ方ガ足リナイ、教育ノ低下ヲ防グト云フ消極的デナク積極的ノ施設ヲシナイカト云フ御説ノヤウデアリマスケレドモ、三千萬圓デハ、サウ大シタ施設ハ出來マセヌ、併ナガラ第一ニ義務教育ノ低下ヲ防ギ、足ラザル收容ヲ増スト云フコトハ是ハ何ヨリモ先ニ此増額ニ依テ圖ラナケレバナラスト、多少地方ノ状態ニ依テソレソレ異ナリマセウガ、大體サウ云フコトニナラナケレバナラスト思ヒマス、要スルニ低下ヲ防グト云フノモ進歩ヲ圖ルト云フノモ、ドッチニシテモ、是ハ言葉ノ違ヒデアリマス、事柄ハ同ジデモ、實質上ハ同ジコトデアリマス、一尺ノモノヲ八寸ニ下ゲヌノモ、八寸ノモノヲ一尺ニ延バスノモ矢張同ジコトデアリマス、ソレハ言葉ノ違ヒデアリマス、要スルニ積極的トカ消極的トカ云フモノハ、言葉ノ違ヒデ實質ニ於テ何等ノ違ヒハナイ、而シテ高等教育ニ矢張力ヲ盡シ過ギルト斯ウ云フ御説デアリマスケレドモ、主ニ金ノ點カラシテ仰セニナルヤウデアリマスケレドモ、併ナガラ今申シマス通り一千萬圓ヲ六箇年ニ七拾萬圓トカ八拾萬圓トカニ致シタナラバ(聽取シ難シ)サウ云フ譯ニハ行カヌ、況ヤ研究科ヲ十五校ト云フコトヲ大キク仰ツシャルガ、是ハ千萬圓ノ中ノホンノ三分ノ一カ四分ノ一カ、是ハホンノ少シノ金デ出來ルコトデアリマスカラ、普通教育ニ對スル害ヲ及ボシテマデモ、高等教育ヲ擴張スルトカ振興スルトカ云フコトデハナイ、矢張是ダケノコトヲ致サナケレバ今ノ缺陷ヲ

補フコトハ出來ナイト云フコトハ事實デアリマス、是ダケノコトヲ申シテ置キマス

○岡田良平君 私ハ質問ヲ致シマスト益分ラナクナッテ參リマスカラ、他日ノ機會ニ讓リマス、今日ハ是デ……

○子爵西大路吉光君 唯今問題ニ相成ッテ居リマスル議事日程ノ第三ハ、其ノ特別委員ノ數ヲ十五名トセラレムコトノ動議ヲ提出イタシマス、何卒御贊成ヲ請ヒマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○子爵八條隆正君 贊成

○議長(公爵德川家達君) 西大路子爵ノ本案ノ委員ノ數ヲ十五名トスル說ニ、同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 次ハ御異議ガナケレバ日程第四ヨリ第八マデ一括シテ説明ヲ煩ハシマス、日程第四、所得税法中改正法律案、第五、營業税法中改正法律案、第六、石油消費稅法廢止法律案、第七、賣藥稅法中改正法律案、第八、印紙稅法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

所得稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十二年二月十日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議員長公爵德川家達殿

(小字ハ衆議院ノ修正文、一ハ同削除ノ符號ナリ)

所得稅法中改正法律案

所得稅法中左ノ通改正ス

第二條及第三條中、「銀行定期預金又ハ定期預金ノ性質ヲ有スル銀行預金」

ヲ「又ハ銀行預金」ニ改ム

第二十六條中「申出テタルトキハ」ヲ「申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ

拘ラス」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ヨリ三年以内ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得

第二十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條中「又ハ北海道、沖繩縣ノ區」ヲ削ル

第三十條中「又ハ北海道、沖繩縣ノ區」ヲ削リ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第三十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

第三十條第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス

第七十三條ノ二 政府ハ法人ノ株主又ハ社員ノ一人及其ノ親族、使用人其ノ他特殊ノ關係アリト認ムル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計カ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ニ付テハ其ノ

留保シタル所得中左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限り之ヲ株主又ハ社員ニ配當シタルモノト看做スコトヲ得

一 事業年度末ニ於ケル積立金及其ノ事業年度ノ所得中留保シタル金額ノ合計金額カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ニ屬スル其ノ事業年度ノ所得中留保シタル金額ヨリ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額

二 各事業年度所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

各事業年度所得中留保シタル金額カ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ニ對シ年三十分ノ一ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過セサルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セズ

第七十三條ノ三 前條ノ法人ト其ノ株主又ハ社員及其ノ親族、使用人其ノ他特殊ノ關係アリト認ムル者トノ間ニ於ケル行為ニ付所得稅脱漏ノ目的アリト認ムル場合ニ於テハ政府ハ其ノ行為ニ拘ラス其ノ認ムル所ニ依リ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第七十三條ノ四 政府ハ前二條ノ規定ヲ適用セムトスルトキハ所得審査委員會ノ決議ニ依リ之ヲ決定ス

第七十四條第一項中「逋脱シ」ノ下ニ「又ハ逋脱セムトシ」ヲ加ヘ同條第二項中「第一項」ヲ「第二項」ニ改ム

附則

附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル銀行預金利子中從前ノ規定ニ依リ第三種所得トシテ計算スヘキモノニ付テハ支拂期ノ本法施行前ニアルモノニ限り大正十二年分第三種所得トシテ計算ス

營業稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十二年二月十日

衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵 德川家達殿

（小字ハ衆議院ノ修正文、一ハ同削除ノ符號ナリ）

營業稅法中改正法律案

營業稅法中左ノ通改正ス

第五條ノ二中「私設鐵道法、輕便鐵道法」ヲ「地方鐵道法」ニ改ム

第十二條第一項ヲ左ノ如ク改ム

營業稅ハ左ノ課稅標準及稅率ニ依リ毎年之ヲ賦課ス

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	甲 萬分ノ八 乙 萬分ノ十一 丙 萬分ノ二十 丁 萬分ノ三十
銀行業、保險業、無盡業	從資本業金額	千分ノ三、五 一八每三二圓
金錢貸付業、物品貸付業	從運轉資本金者額	千分ノ四、八 一八每三二圓



製造業、印刷業、出版業、寫真業	運送業、運河業、棧橋業、船舶運送場業、貨物陸揚場業	倉庫業	鐵道業	請負業	席貸業	料理店業	旅人宿業	周旋業、代理業、仲立業、問屋業、信託業
從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者	從業者ノ内職工勞役者
資本金額	資本金額	資本金額	資本金額	資本金額	資本金額	資本金額	資本金額	資本金額
千分ノ三、三 一人毎ニ二四錢	千分ノ三、五 一人毎ニ二四錢	千分ノ五十七 一人毎ニ二四錢	千分ノ十四 一人毎ニ二四錢	千分ノ二、八 一人毎ニ二四錢	千分ノ七十九 一人毎ニ二四錢	千分ノ八十 一人毎ニ二四錢	千分ノ五十五 一人毎ニ二四錢	千分ノ二十一 一人毎ニ二四錢

第十七條 製造業ノ資本金額カ左ノ金額ノ十二割ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ヲ課稅標準ヨリ控除ス

一 前年ノ資本金額カ前年ノ資本金額以下ナルトキハ前年ノ資本金額  
二 前年ノ資本金額カ前年ノ資本金額ヲ超過スルトキハ前年ノ資本金額

第二十六條 課稅標準ハ營業稅調查委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

調査委員會閉會後課稅標準ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スヘカリシ年ノ翌年ヨリ三年以内ニ於ケル調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ課稅標準ヲ決定スルコトヲ得  
調査委員會閉會後營業者納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ課稅標準ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス政府ニ於テ其ノ課稅標準ヲ決定ス

第二十六條ノ二ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條ノ三中「又ハ北海道、沖繩縣ノ區」ヲ削ル

第二十六條ノ四 調査委員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

調査委員ヲ選舉スルトキハ同時ニ之ト同數ノ補闕員ヲ選舉スヘシ

第二十六條ノ五 調査委員及補闕員ノ選舉區域ハ調査委員會ヲ置クヘキ區域ニ依リ投票區及開票區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ市制第六條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市ニ在リテハ區ノ區域ニ依ル

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第二十六條ノ六 選舉區域内ニ於テ營業シ其ノ年第十三條ノ申告ヲ爲シ課稅標準ノ決定ヲ受ケタル者ニシテ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモノハ調査委員及補闕員ヲ選舉シ又ハ調査委員若ハ補闕員ニ選舉セラルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一 無能力者

二 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ了ヘサル者

三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者

四 六年以上ノ懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者

五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

六 第三十四條乃至第三十四條ノ三ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者

其ノ年分課稅標準決定前選舉ヲ爲ス場合ニ於テハ前年營業稅ヲ納メ其ノ年第十三條ノ申告ヲ爲シタル者ヲ以テ課稅標準ノ決定ヲ受ケタル者ト看做ス

營業繼續ノ場合ニ於テハ前ノ營業者ノ爲シタル申告若ハ納稅又ハ其ノ受ケタル課稅標準ノ決定ハ後ノ營業者ノ爲シタル申告若ハ納稅又ハ其ノ受ケタル課稅標準ノ決定ト看做ス

營業者カ法人ナル場合ニ於テハ選舉ニ關スル代表者ヲ定メ政府ニ申告ス

ヘシ

調査委員ニ當選シタル者又ハ第一項但書ニ該當スル者ハ法人ノ代表者タルコトヲ得ス

選舉人名簿ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ七 投票及開票ニ關スル事務ハ市區町村長又ハ戸長之ヲ擔任シ選舉會ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス

第二十六條ノ五第二項ノ町村組合ニ付テハ其ノ組合管理者ヲ町村長ト看做ス

第二十六條ノ八 稅務署長ハ調査委員及補闕員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前其ノ旨ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ九 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ調査委員及補闕員ノ各選舉ニ付選舉區域毎ニ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ至リ被選舉人各一人ノ氏名ヲ各別ノ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ但シ選舉區域ヲ異ニシ各別ニ營業稅ヲ納ムル場合ニ於テハ代人ヲシテ投票セシムルコトヲ得

投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付ス

第二十六條ノ十 市區町村長又ハ戸長ハ投票ヲ調査シ直ニ其ノ結果ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第二十六條ノ十一 稅務署長前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ選舉會ヲ開キ之ヲ調査スヘシ

第二十六條ノ十二 投票、開票及選舉會ニハ立會人ヲ立會ハシムヘシ

立會人ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條ノ十三 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ當選シタル者同時ニ補闕員ニ當選スルモ補闕員タルコトヲ得ス

第二十六條ノ十四 調査委員及補闕員ノ選舉終了シタルトキハ稅務署長ハ當選人ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市區町村長又ハ戸長ニ通知スヘシ

市區町村長又ハ戸長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ十七 調査委員及補闕員ノ任期ハ選舉期日ノ屬スル月ヨリ四年トス但シ選舉區域ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ任期ハ選舉區域ニ變更ヲ生シタル日ノ屬スル月ヲ以テ終了スルモノトス

第二十六條ノ十九 調査委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ投票ノ最多數ヲ得タル補闕員ヨリ順次之ヲ補充シ投票ノ數同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

調査委員ニ闕員ヲ生シ之ヲ補充スヘキ補闕員ナキトキハ調査委員ノ補闕選舉ヲ行フ

第二十六條ノ二十中「補闕員ヨリ調査委員」ヲ「前條ノ規定ニ依リ調査委員又ハ補闕員」ニ改ム

第二十六條ノ二十七中「五月三十一日」ヲ「三月三十一日」ニ改ム

第二十八條ノ一 前條ノ請求アリタルトキハ營業稅審査委員會ノ決議ニ依

リ政府ニ於テ其ノ課稅標準ヲ決定ス

審査委員會ハ前條ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ營業ニ關スル事項ヲ質問スルコトヲ得

第二十六條ノ二十八ノ規定ハ之ヲ審査委員會ノ決議ニ準用ス

第二十八條ノ二 各稅務監督局所轄内ニ營業稅審査委員會ヲ置ク

審査委員會ハ左ノ審査委員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 收稅官吏中ヨリ大藏大臣ノ命シタル者三人

二 稅務監督局所轄内各府縣又ハ北海道ニ於テ調査委員ノ互選シタル者

府縣ニ在リテハ各一人北海道ニ在リテハ四人

審査委員會、審査委員及其ノ補闕員ニ關スル事項ハ本法ニ定ムルモノヲ

除クノ外命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條ノ三 調査委員ヨリ選舉セラレタル審査委員ニハ日當及旅費ヲ

給ス

第二十八條ノ四 課稅標準中其ノ年ノ實蹟ニ依リ計算シタル額カ政府ノ決定シタル額ノ二分ノ一ニ達セサルモノアルトキハ政府ハ營業者ノ請求ニ

因リ其ノ課稅標準ヲ更訂ス

第二十九條 其ノ年ニ於ケル營業ノ利益カ其ノ年分營業稅額ニ達セサルト

キハ營業者ノ請求ニ因リ其ノ不足額ニ相當スル營業稅ヲ免除ス

前項ノ利益ノ計算ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第三十條 前二條ノ規定ニ依リ課稅標準ノ更訂又ハ營業稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ政府ニ請求スヘシ但シ法人ニ在リテハ前條ノ請求ニ限リ其ノ年十二月末日ヲ合ム事業年度終了後三十日以内ニ請求スルコトヲ得

第三十一條 前條ノ請求アリタルトキハ政府ハ其ノ處分ノ確定スルニ至ル迄稅金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第三十二條 營業者第二十八條ノ一ノ決定又ハ第二十八條ノ四若ハ第二十九條ノ處分ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得第三十三條ノ二 政府ハ同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ營業稅ノ課稅標準ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ニ關スル調書ヲ提出スヘシ

第三十四條 第十三條ノ申告ヲ爲サス若ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者、故意ニ第三十二條ノ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者又ハ帳簿ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十四條ノ三 營業稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第三十四條及前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附則

本法ハ大正十二年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十二條、第十七條及第二十八條ノ四乃至第三十一條ノ改正規定ハ大正十二年分營業稅ヨリ之ヲ適用ス

營業稅調査委員及營業稅審査委員ニ關シテハ大正十二年五月十日迄ハ仍從前ノ規定ニ依ル

第二十六條ノ二十七ノ改正規定中三月三十一日トアルハ大正十二年ニ限リ五月十日トス

大正十二年三月末日ニ於テ任期ノ終了スヘキ營業稅調査委員及補闕員ノ任期ハ大正十二年五月十日迄之ヲ延長ス

石油消費稅法廢止法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正十二年二月十日  
衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

石油消費稅法廢止法律案

石油消費稅法ハ之ヲ廢止ス

附則

本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前外國ニ輸出若ハ朝鮮ニ移出ノ目的ヲ以テ消費稅ヲ納付セスシテ製造場若ハ保稅地域ヨリ引取り、消費稅ヲ納付シテ外國ニ輸出若ハ朝鮮ニ移出シ又ハ消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタル石油ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

賣藥稅法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正十二年二月十日  
衆議院議長 奧 繁三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

賣藥稅法中改正法律案

賣藥稅法中左ノ通改正ス

第一條中「賣藥規則」ヲ「賣藥法」ニ改ム

第一條ノ二乃至第一條ノ六ヲ削ル

第二條、第三條、第五條及第十條中「賣藥印紙稅」ヲ「賣藥稅」ニ改ム

第十三條ノ二ヲ削ル

第十六條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條

第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六

十六條ノ例ヲ用キス

第二十條ヲ削ル

附則

本法ハ大正十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前賦課スヘキ賣藥營業稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

印紙稅法中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正十二年二月十日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長 奧 繁二郎

印紙稅法中左ノ通改正ス

第二條中「五圓」ヲ「十圓」ニ、「五十圓」トナルトキハ「五十圓」ヲ「百圓」ヲ超ユルトキハ「百圓」ニ改ム

第三條 削除

第四條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ

一 貯金通帳、積金通帳及積金證書（貯蓄銀行法第一條

ノ貯金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル）

二 産業組合ノ發スル貯金通帳

三 産業組合又ハ住宅組合ノ發スル出資證券

四 農業倉庫證券

五 委任狀

六 約束手形

七 爲替手形

八 銀行預金證書

九 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書

十 産業組合聯合會ノ發スル出資證券

十一 船荷證券

十二 運送貨物引換證

十三 倉庫證券

十四 保險證券

十五 株券

十六 債券

十七 相互保險會社ノ發スル基金證券

十八 株式申込證

一 錢  
二 錢

十九 社債申込證

二十 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書

二十一 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書

二十二 信託行爲ニ關スル證書

二十三 無盡ニ關スル證書

二十四 定款又ハ組合契約書

二十五 權利ノ變更ニ關スル證書

二十六 追認又ハ承認ニ關スル證書

二十七 物品切手

二十八 賣買仕切書

二十九 物品又ハ有價證券ノ賣買ニ關スル證書

三十 送狀

三十一 受取書

三十二 金高記載ナキ證書

三十三 擔保品差入證書及擔保品預證書

三十四 通帳

三十五 判取帳

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿

二 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿

三 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書

四 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書

五 小切手

六 産業組合、産業組合聯合會又ハ住宅組合ノ發スル出資證券ニシテ其ノ記載金高十圓未滿ノモノ又ハ金高記載ナキモノ

七 記載金高十圓未滿ノ約束手形及爲替手形

八 記載金高十圓未滿ノ積金證書及銀行預金證書

九 産業組合又ハ産業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未滿ノモノ

三 錢

二十五 錢



課稅ヲ致スコトニ立案ヲ致シマシタノデアリマス、次ニ營業稅ニ付キマシテ申述ベマスレバ、御承知ノ如クニ、營業稅ハ其課稅標準ニ付キマシテモ、亦調査ノ方法ニ付マシテモ、最モ議論ノアリマスル稅目デアリマス、今回ノ修正ニ當リマシテハ、出來マスルナラバ、根本的ニ改正ヲスルコトガ適當デアルト考ヘタノデアリマス、併ナガラ左様ナ根本的ノ整理ヲ致シマスルニハ、前ニ申シマシタ一般ノ稅制整理ト待ツニ非ザレバ、到底出來難イコトデアルト存ジマス、從テ今回ノ修正ニ於キマシテハ、應急的ノ整理トシテ、立案ヲ致ス外ナイト考ヘマシテ、其意味ノ提案ヲ致シマシタ次第デアリマス、即チ營業稅ノ標準デアリマスル所ノ建物賃賃價格ハ、二三ノ業態ヲ除キマシテ其外ノ業態ノモノニ付キマシテハ、必シモ是ガ負擔力ノ大小ニ比例スルモノデハナイト考ヘマスルノデアリマシテ、之ニ依リマシテ、建物賃賃價格ヲ課稅標準ヨリ除キマスルコトニ致シマシタノデアリマス、其結果ト致シマシテ、尙ホ全體ノ業態ノ上ノ權衡ヲ考ヘマシテ、各業態ニ對スル稅率ニ變更ヲ加ヘマシテゴザイマス、又現行法ニ依リマスレバ、課稅標準ノ減損更訂ヲ致シマシタ場合ニ、新ニ定マリマシタ課稅標準ガ法律ニ定メラレテ居リマスル所ノ最低限度ヨリモ、以下ニ降ルコトガアリマシタト致シマシテモ、尙ホ稅金ヲ賦課スルコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ是ハ法律ガ課稅標準ノ最低限度ヲ定メマシタ趣意ニハ適ハナイト申サナケレバナリマセス、故ニ此場合ニハ課稅ヲ致サナイト云フコトニ改メマシテゴザイマス、又現行法ニ依リマスレバ、營業所得ガ全然アリマセスト云フ場合ニ於テモ、矢張り課稅ヲ致サネバナラヌコトニ相成ッテ居リマス、是ハ適當デナイト云フ考ヲ以チマシテ、所得ガアリマセスケレバ、課稅ハ致サナイト云フコトニスルコトヲ適當ト考ヘマシテ、左様ニ改メマシタノデアリマス、又營業ニ對シマシテ、調査ノ公平確實ヲ圖リマス爲ニ、一ツノ手段ト致シマシテ、營業者ノ團體ニ對シマシテ、課稅標準ニ關スル事柄ノ諮問ヲスルト云フコトニ新ナル立方ヲ、立案ヲ致シマシテゴザイマス、又調査委員並ニ審査委員ノ制度ヲ所得稅ト大體ニ同ジヤウニ致シマスルコトガ適當デアルト考ヘマシテ、是モ左様ノ修正ヲ致シマシタノデアリマス、次ニ賣藥稅法ノ修正ニ付テ申述ベマスレバ、現行ノ賣藥營業稅ハ藥劑ノ一方毎ニ、製造定價ノ總額ニ對シテ、稅額ヲ定ムルコトニ相成ッテ居リマス、從テ一箇年間ノ製造定價ノ總額ガ、相同ジキモノノ間ニアリマシテモ、其方數ガ多イモノト、少イモノトノ

間ニハ、課稅ノ金額ガ異ッテ居ルノデアリマス、又一方劑ガ十萬圓以上ノモノデアリマスレバ、其製造高ガ如何ニ多額デアリマシテモ、十萬圓ノモノト同一ノ課稅ヲ致スコトニ相成ッテ居リマス、是等ガ相當ニ公平ヲ缺イテ居ルト認メナケレバナラヌト考ヘマス、殊ニ賣藥ノ製造販賣ニ對シマシテ、課稅ヲ致シマスル關係ガ他ノ物品ノ製造販賣ニ對シテ、課稅ヲ致シマスル關係ト、別々ニ稅法ノ取扱ヲ致サネバナラヌト云フコトハナイト考ヘマスルノデアリマス、此考ヨリ致シマシテ、今回ノ修正案ニ於キマシテハ、賣藥營業稅ヲ廢止イタシマシテ、賣藥ノ製造販賣ニ對シマシテハ、一般ノ營業稅法ヲ適用イタシマスルコトニ改メルコトニ致シマシタ、次ニ印紙稅法ニ付テ申述ベマスレバ、御承知ノ如ク、現行ノ印紙稅法ハ明治三十二年ニ制定イタサレマシタモノデゴザイマス、爾來多數ノ年所ヲ經過シテ居リマシテ、其間ニ申スマデモナク、經濟事情ガ大イニ變遷ヲ致シテ參リマシタ、從テ現行ノ印紙稅法ハ、今日ノ時勢ニ適シナイト考ヘマスル點ガ多クアリマスルノデゴザイマス、故ニ今回ノ修正案ニ於キマシテハ、或ハ課稅ノ最低限度ヲ引上ゲルコトニ致シマシタシ、又種々ノ證書ニ對シマスル稅率ヲソレト適當ニ改メルコトニ致シタノデアリマス、次ニ石油消費稅法ニ付テ申述ベマスレバ、申ス迄モナク石油消費稅ハ燈火用ニ供シマスル石油ノ消費ニ對シテ課稅イタシマスルモノデアリマシテ、近來電氣ヤ瓦斯ノ發達ニ伴ヒマシテ、歲ヲ追フテ石油ノ燈火用ニ供セラレマスルモノ、需要ガ減少シテ參リマスルノデアリマシテ、其稅額モ年々減少ヲ見ルト云フヤウナ有様デアアルノデゴザイマス、且ツ燈火用トシテ石油ヲ消費イタシマスル者ハ、概シテ下層ノ人々デアアルノデゴザイマス、又殆ド山間僻地ノ人々ニ限ラレテ居リマスル狀況デアアルト申シテモ宜シイト考ヘマス、是等ノ關係ヨリ致シマシテ今回ハ之ヲ廢止スルコトニ致シマシタ次第デアリマス、政府ノ提出案ハ以上ノ通りデゴザイマシテ、之ニ對シマシテ衆議院ニ於テ一二ノ修正ガ加ヘラレマシテゴザイマス、併ナガラ是等ノ修正ハ政府ノ原案ノ趣旨ニ對シテ格別ノ影響ヲ及ボスモノデハナイトデアリマス、隨テ政府ト致シマシテハ、衆議院ノ修正ニハ同意ヲ表スルコトト致シマシタノデアリマス、尙ホ各法律案ノ内容ノ詳細ノ點ニ付キマシテハ、委員會ニ於テ十分ニ說明ヲ致シマスル考デゴザイマス、何卒十分ニ御審議ノ上ニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ通告順ニ依リマシテ質疑ヲ許ス筈デゴザイ  
マスガ、本日ハ都合上、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、延會イタシタイト考  
ヘマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議長ノ選定イタシマシタ特別委員ノ氏名ヲ書記官  
ヲシテ報告ヲ致サセマス

〔瀬古書記官朗讀〕

明治四十年法律第二十一號中改正法律案特別委員

子爵牧野 忠篤君 子爵渡邊 千冬君 男爵目賀田種太郎君

男爵南岩倉 具威君 男爵東 郷 安君 若槻禮次郎君

室田 義文君 菅原 通敬君 横山 章君

醫師法中改正法律案特別委員

伯爵中川 久任君 子爵西大路 吉光君 子爵米津 政賢君

北里 柴三郎君 男爵今園 國貞君 男爵池田 長康君

西久保 弘道君 永田 秀次郎君 根津 啓吉君

市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案特別委員

侯爵蜂須賀 正韶君 子爵藪 篤 鷹君 子爵八條 隆正君

大久保 利武君 木場 貞長君 江木 千之君

和田 彦次郎君 男爵神田 乃武君 男爵千秋 季隆君

男爵清水 資治君 木内 重四郎君 高田 早苗君

田所 美治君 鎌田 勝太郎君 山田 歛君

○議長(公爵徳川家達君) 明後十五日ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマ  
ス、本日ハ是ニテ散會イタシマス

午後零時二十五分散會

